

# 島根大学附属図書館 年報 2016

SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY Annual Report 2016

## 大学図書館の使命

大学図書館の役割はますます多岐にわたってきている。「役割」というような優しい言葉では少し合わない気がする。やはり「使命 (mission)」なのだろう。

そもそも大学図書館は学生さんや教職員のみなさんへの支援業務は欠かすことはできない。それに加えて、漠然とした社会貢献ではなく、焦点を絞り価値を生み出そうとする地域連携活動の重要度が増してきた。大学、なかんずく大学図書館は「知の拠点」であるという意味からも地域との協働を求められるのは当然であり、県内に高等教育機関が少ない地方では尚更であろう。もう一つ忘れてならないのは、大学図書館で働くメンバーのスキルアップである。これ無くしては、目まぐるしく進展していく社会や大学のニーズに応えることはできない。大学の各種事務部門の運営には専門的知識が不可欠であるが、それらと比べても図書館職員の専門性は高いと言える。図書館運営を支え、知の共有・創出のためにも人材育成を忘れてはならない。

2016 (平成28) 年度から、島根大学の組織編成が変更され、附属図書館は独立の部局と位置付けられ、私も学長に直接会える機会が増えた。そのため、学長から時には期待を込めた厳しい指導を受けることもある。その中で、図書館の諸活動が学内にもよく認知されていないという指摘も多々受ける。この機会にその一部を簡単に述べておきたい。

2016 (平成28) 年度から2018 (平成30) 年度までは「第6期学術情報基盤整備計画」の基本方針に基づいて、電子ジャーナルやデータベース等の電子資料を整備するために、出版社との契約交渉やそれに伴う運営業務に力を注いでいる。特に、電子ジャーナル経費は高額であり、費用対効果を考慮した削減も視野に入れねばならず、非常に苦心するところである。また、変動する為替レートにも注視する昨今である。本学で利用可能な電子ジャーナルは他大学と比較して遜色はないが、それらを教員や大学院生のみなさんが利活用して研究成果に結び付け、多くの外部資金を獲得していただけることが極めて重要であるのは言うまでもない。その支援の一つとして、図書館では電子ジャーナルのダウンロード数を増加していただくためにも、新任の先生方のみならず、学生さんを含めた各階層の利用者に向けての講習会も数多く開催している。併せて、学生用図書の実・整備にも心を配っている。その中には、和洋雑誌の定期購読も含まれ、研究・勉強から一般教養・趣味に至るまで幅広く利用していただいている。学生目線で購入書籍を決めるために、近郊の書店へ希望学生さん達と一緒に赴く「選書ツアー」も実施している。また、最近では、今後ますます重要度を増す電子ブックの購入にも予算を割いている。さらに英語を中心とする多読図書 (読み易い英語の本を辞書などを使わずにたくさん読んで、英語力を身につけるための小冊子) を整備しつつある。これについては、本学の外国語教育センターとの連携が重要となる。その他にも2017 (平成29) 年度から、松江市立図書館との共同事業として「移動図書館」を本学にも巡回してもらうことにした。これにより、大学の予算では購入し難い教養書・娯楽書・実用書・絵本等を学内で借りることができるようになった。

電子ジャーナルの価格高騰は上述したが、勿論、苦しんでいるのは本学だけではない。最近、論文の執筆者の権利が見直され、著者最終稿をその著者が所属する機関が管理するリポジトリに公開することを出版社が認める傾向が広まってきた。これを「オープンアクセス」と言い、政府も推奨している。本学でも、この学術情報リポジトリ (研究成果を世界に無料で発信するインターネット上のツール) を図書館が整備しており「SWAN」という愛称で呼んでいる。SWANへ教員のみなさんの研究成果を登録していただけるように、登録方法の簡便化を図るとともに、その広報活動に努めてきた。その成果として、今まで登録が少なかった原著論文の登録数も次第に伸びてきた。今後はさらなる進展を望みたい。2017 (平成29) 年5月にはSWANをリニューアルして、今まで以上に見易いものにした。

本学のCOC事業の一環として、誰もが利用・参画できるWeb上の郷土資料室「しまね地域資料リポジトリGO-GURa (郷蔵)」を公開した。GO-GURaを活用することによって、島根県内の市町村までのすべての行政機関、企業、NPO法人等の各種団体が発行される報告書等の資料をデジタル化して、世界に発信することができるというものである。このように、都道府県の隔々までの発行機関の地域に関連した資料を集積するという取り組みは今までになく、先駆的であると言える。今後は、地域未来戦略センターと連携してGO-GURaへの新規参加機関の拡大を図るとともに、島根県立図書館とも連携してGO-GURaの説明会も開催する予定である。

地域連携活動の促進のために、2016 (平成28) 年度から図書館の展示室を「地域コミュニティラボ」と銘打って、地域の行政機関、企業、NPO法人等の活動・成果を展示している。その開設記念展示として、島根県の地場産業の一つである高度な鋳物技術を紹介する「鐵の造形—島根県鋳鉄鋳物産業の技と匠」展を開催した。今後も逐次「地域コミュニティラボ」を実施する計画を進めている。字数が限られているので、詳しく述べられないが、以前から、手銭記念館や河本家住宅保存会、法文学部内の山陰研究センター、附属図書館研究開発室と連携しながら、本学所蔵の史資料や地域の古典籍をデジタル化して公開する事業にも力を入れている。

この巻頭言によって、島根大学附属図書館に課せられた使命を果たすために行っている活動の一端をお伝えできたならば幸いです。

附属図書館長 杉江実郎



(写真) Academia Militar (ポルトガル) の図書室にて

## 附属図書館の理念と目標

2013（平成25）年8月2日学術情報機構附属図書館運営会議承認

### 理念

島根大学は、社会の発展と進歩に貢献するため、豊かな人間性と専門性を身につけた人材の養成を使命とし、創造性ある研究の促進や地域連携を推進しています。（「島根大学憲章」より）

附属図書館は、島根大学における学修、教育、研究を支援するための基盤施設として学術情報の収集、提供に努め、また、地域や国際社会との連携をすすめ、地域に根ざし、社会に貢献できる図書館を目指します。

### 目標

#### 1. 学修・教育支援のための資料と環境の整備

学生の学修を支援するため、充実した資料と学修環境を整備し、人格を育む教育を目指して、学内の教育研究プログラムと連携した教育支援を行います。

#### 2. 研究支援のための学術情報整備

多様な分野の特色ある高度な研究を支援するため、国内外の学術情報の収集整備に努め、これらを効率的に利用できる電子図書館機能を充実します。

#### 3. 地域の学術情報拠点としての連携協力

地域の特性と大学の特色を生かした企画、運営をすすめ、地域の学術情報拠点として、資料提供、連携企画、情報発信等を積極的に行います。

#### 4. 学術コミュニケーションへの貢献

大学の研究成果や貴重資料を世界に向けて発信し、学術コミュニケーション活動に貢献します。

※2016（平成28）年度から附属図書館は機構から外れ、単独部局となった。

## CONTENTS

TOPICS	4
図書館の動向	
・学術情報基盤整備計画	8
・研究開発室の活動状況	9
・大学COC・COC+事業への参画 —地域の情報を集積して発信—	10
・社会貢献—学術情報の提供をとおして—	11
・図書館コンシェルジュの活動	12
統計	13
・利用者	14
・貸出	15
・図書	16
・図書館資料費	17
・電子ジャーナル	18
・データベース／講習会	19
・Webサービス	20
・相互協力	22
図書館日誌	23
・資料提供	24
・報道／刊行物／人事異動／研修	25

## ■ 附属図書館ホームページのリニューアル

2016（平成28）年4月1日（金）に附属図書館ホームページをリニューアルした。従来のメニューに加え、図書館が取り組む企画や外部連携事業のPR枠を新たに設け、より広報力を高める構成とした。また、2015（平成27）年10月に公開した英語版に引き続き、中国語版ホームページを作成し同時に公開した。内容の翻訳には、本学留学生や、本学と学術交流協定を締結している閩南師範大学の図書館職員の方に協力していただいた。

【2016年4月】



## ■ 男女共同参画図書コーナー「いこうる」を設置

男女共同参画推進室と連携して、本館内に男女共同参画図書コーナー「いこうる」を開設した。男女共同参画社会の理念を学生や教職員に浸透させることを目的として設置されたもので、国立女性教育会館からの団体貸出図書100冊を配置して閲覧・貸出利用に供しているほか、同推進室が発行するリーフレットや寄贈を受けた雑誌を置いている。このコーナーに親しんでいただこうと愛称を学内公募し、教育学部の石野陽子先生に応募いただいた「いこうる」を愛称として決定した。「いこうる」は、男女共同参画を表す“gender equality”の「イコール」を“憩いの場”の「いこう」につなげたネーミングで、このコーナーを利用し学習することで、誰もが自分らしい人生を歩み、他者を尊重しあう家庭や学校、地域社会を育てていこう、という思いが込められている。

【2016年4月】



## ■ 必修科目「情報科学」で図書館ガイダンスを実施

本館では、学部1年生の必修科目である「情報科学」の1コマを使って、図書館ガイダンスを実施した。学部学科別に分かれた15クラスに対して、4月下旬から5月中旬にかけて行う大掛かりなもので、情報企画課の職員とも協力した。これは2016（平成28）年度からの試みで、これにより松江キャンパスの1年生全員が入学後早期において、同一の内容で図書館の使い方について学ぶ体制が整った。

このガイダンスは1コマ（90分）を3つのパートに分けて実施した。「図書館サービス概説」では大学図書館の概要とOPACの使い方を紹介し、「図書館ツアー」では館内の図書の並び方や館内の様々な学習スペースを案内した。そして「情報セキュリティ研修」は情報企画課の職員が担当してe-learning形式で行われた。

【2016年4-5月】



## ■ グループ学習室および一部研究個室のWeb予約が可能に

2016（平成28）年6月、本館のグループ学習室および一部研究個室のWeb予約が可能になった。島根大学の学生および教職員は、カウンター備え付けのiPadもしくは学内LANに接続した状態のスマートフォン等から予約を行うことができる。研究個室については、本館内5部屋のうち、2部屋が予約に対応している。予約は7日前から可能で、一回の利用時間は3時間までとなっている。

Web予約が可能になる以前は申込書に必要事項を記入する必要があったが、以後はWeb入力のみで予約手続きが終了するため、利用者の手間を削減することができた。

グループ学習室および一部研究個室は、試験期間中は一日中予約で埋まるなど、活発に利用されている。

【2016年6月】

## ■ 学生選書の企画を実施

本館では2016（平成28）年6月15日（水）に、毎年恒例の学生選書ツアーを開催した。選書した中でも選りすぐりのオススメ本には選書した学生がPOPを作成し、館内で紹介した。

同じく本館では構内にある大学生協書籍売り場でも、同年12月12日（月）～22日（木）にかけて学生選書を受け付けた。学生からのリクエストは年間を通じてWeb上で受け付けているが、図書を手にとって気軽に選書できるよう企画した。

【2016年6, 12月】



## ■ ミニ企画展「旧制松江高校出身の異才編集者 花森安治と田所太郎」を開催

島根大学ミュージアムと共同で、本学の前身である旧制松江高等学校出身の編集者「花森安治」と「田所太郎」にスポットをあてた企画展を開催した。展示は二期に分けて行われ、第一期は旧制松江高校の現存する唯一の建物である「島根大学旧奥谷宿舎」（現在はサテライトミュージアム）を会場に、第二期は本館展示室を会場にして開催された。第二期は好評のため会期を延長して開催した。

二人の異才編集者の原点である旧制松江高校時代にさかのぼり、花森と田所が編集した『校友会雑誌』（松江高等学校文藝部）や学生時代の資料を展示するとともに、花森の編集者としての代表的な仕事である『暮しの手帖』を創刊号から展示した。

〈第一期〉

日時：2016（平成28）年7月16日（土）～8月28日（日）

場所：サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎

〈第二期〉

日時：2016（平成28）年8月30日（火）～10月16日（日）

場所：附属図書館（本館）展示室

【2016年7～10月】

NHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」の放映時期と重なったことから花森安治が改めて注目され、『校友会雑誌』は高い関心を集めて、この企画展と前後して松江歴史館への展示貸出、NHK『日曜美術館』への画像提供、みずのわ出版の『花森安治装釘集成』への掲載を始め、多くの利用があった。また、2017年1月からは、世田谷美術館の企画展『花森安治の仕事 —デザインする手、編集長の眼—』展に貸出しを行った。世田谷美術館で開催されたこの企画展は、2017年10月まで愛知県碧南市、富山県高岡市、岩手県盛岡市の各美術館で巡回展を開催中である。



花森安治編集『校友会雑誌20号』

## ■ 中学生の職場体験受け入れ

本館では2016（平成28）年10月、4日間にわたり松江市立湖南中学校から職場体験の生徒2名を受け入れた。体験してもらったのは、図書の返却作業、カウンター業務、図書のラベル貼りなどであったが、カウンターでは図書館利用者にも積極的に挨拶をするなど、どの業務にも積極的な姿勢で取り組んでくれた。

医学図書館では、同年9月、出雲市立第二中学校及び第三中学校からの職場体験の生徒を各2名ずつ受け入れた。職員に「他にすべき仕事はないか」等、声をかける生徒もあり、主体性をもって業務に取り組んでいた。また彼らの視点で館内から“気になる本”を探し、それぞれコメントをつけて、翌月に館内で展示した。加えて出雲市立第三中学校の生徒は、利用者に伝えたいことをテーマにポスターを作成し、館内に掲示した。

【2016年9-10月】



## ■第57回中国四国地区大学図書館研究集会を開催

標記研究集会を当番館の1つとして開催した。本研究集会は、中国地区と四国地区の大学図書館（国立・公立・私立とも）が集まる研修会という位置づけで、年1回開催されている。2016（平成28）年度は島根県が開催地となり、島根大学（国立）、島根県立大学（公立）、比治山大学（私立）とで運営委員会を立ち上げて企画し、30大学から42名が参加した。

テーマは「大学図書館における学内連携を考える：もっと前に！もっと広く！もっと柔軟に！」で、各大学で行われている様々な事例を持ち寄って共有するために、事例報告やポスター発表、グループ討議を行った。

日時：2016（平成28）年10月13日（木）～14日（金）

場所：松江テルサ 大会議室

【2016年10月】



## ■蔵書リユース市を開催

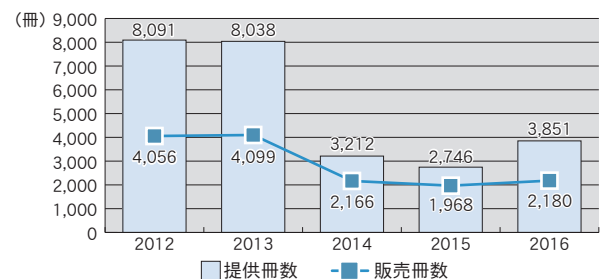
本館で恒例行事となっている蔵書リユース市を2016（平成28）年度も開催した。図書館で重複等を理由に不用となった図書の再利用を目的として、大学生協の協力のもと毎年開催している。1日目は大学の学生・教職員、2日目は一般市民も対象とし、両日とも多くの来場者で賑わった。価格は1冊100円とし（一部50円）、提供した3,851冊のうち約半数を販売することができた。

日時：2016（平成28）年10月19日（水）～20日（木）

場所：松江キャンパス大学会館3階 大集会室

【2016年10月】

蔵書リユース市の提供・販売冊数



## ■全国遺跡報告総覧シンポジウムを開催

島根大学附属図書館がプロジェクト事務局をしている、埋蔵文化財の発掘調査報告書の全文データベース「全国遺跡報告総覧」について、シンポジウムを開催した。

この事業は、研究者・学生を中心に利用需要は多いものの、少数発行で入手しにくい発掘調査報告書について、デジタル化してWeb公開することで更なる利活用を図ることを目的とするものである。全国遺跡報告総覧は、「全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト」（代表機関：島根大学附属図書館）からコンテンツを引き継ぎ、2015（平成27）年6月より国立文化財機構奈良文化財研究所が公開しているもので、公開後、登録コンテンツ数、利用件数ともに順調に伸びている。

シンポジウムは、「全国遺跡報告総覧のメリットと公開までのハードル」をテーマに、講演や事例報告、パネルディスカッションを通して、この事業をさらに発展させていくために何ができるか、報告書発行主体である自治体文化財担当者を中心に活発な議論が交わされた。島根大学からも、これまでのプロジェクトの経緯の説明と未参加自治体向けに全国遺跡報告総覧への参加手続きの案内を行った。

日時：2016（平成28）年11月28日（月）

場所：国立文化財機構奈良文化財研究所 平城宮跡資料館講堂

【2016年11月】



## ■ファシリテーション研修会「ファシリテーターになろう」を開催

松江市立図書館との合同による標記研修会を開催した。「会議が変われば組織が元気になる」をテーマに、主に県内の図書館司書が、職場での会議や打合せ、チーム活動の活性化を図るためのスキルを身につけることが目的である。図書館司書や学生、一般の方など、24名が参加した。日本ファシリテーション協会会員である荒川長巳教授（本学保健管理センター）が講師を務め、参加者は5つのグループに分かれて、実習を中心にファシリテーションの基礎を学んだ。

日時：2016（平成28）年12月13日（火）

場所：タウンプラザしまね

【2016年12月】



## ■第25回島根県医療関係機関等図書館（室）懇談会総会を開催

標記総会は各館もちまわりで毎年開催しており、平成28年度は医学図書館が担当した。17機関から21名の参加があった。当日は図書館情報課長による挨拶の後、本学教員が「女性の健康とワークライフバランスについて」と題し講演を行った。協議事項の検討や意見交換のほか、文献検索の方法やコツをまとめた発表も2題あった。

日時：2016（平成28）年12月19日（月）

場所：附属図書館（本館） 多目的室

【2016年12月】



## ■企画展「足立文庫を通じて見る戦前・戦中・戦後」を開催

法文学部山陰研究センターとの共催で、「足立文庫」を紹介する企画展を開催した。「足立文庫」とは、現境港市出身の教育者、そして考古学者でもある足立正と、その息子の健が2代にわたって収集した旧蔵書、約1,300点1,700冊余からなるコレクションである。本展ではこの中から特に戦前・戦中・戦後の時代状況を、書籍の中の書き込みや新聞の切り抜き等から考察した。会期中には田中則雄教授（本学法文学部）とその研究室の院生2名によるギャラリートークも行った（1月6日、18日）。

日時：2016（平成28）年12月10日（土）～

2017（平成29）年1月22日（日）

場所：附属図書館（本館）展示室

【2016年12月-2017年1月】



## ■戦略的機能強化推進経費等での資料購入

本館では、2017（平成29）年4月の人間科学部新設に先立ち、平成28年度戦略的機能強化推進経費によって、新学部のカリキュラムに関連する資料を重点整備した。具体的には、新学部の3つのコースに関連するテキストやレファレンス資料、そして高い専門性をもった対人援助職の育成（公認心理師、臨床心理士、社会福祉士など）に必要な資料等を、電子ブックを含めて1,036冊購入した。なお資料の選定は人間科学部の教員の協力を得て行った。 【2017年3月】

（整備した資料の内訳）

a) 図書資料（視聴覚資料を含む）	955冊
うち 心理学コース	449冊
うち 福祉社会コース	270冊
うち 身体活動・健康科学コース	236冊
b) 電子ブック	81冊

## ■ 学術情報基盤整備計画

本学では、2001（平成13）年度から開始した「学術情報基盤整備計画」により、全学的な観点にたつて複数の専門分野をカバーする外国雑誌を中心とした電子ジャーナル及び文献データベース等の計画的な整備を行ってきた。全学共通経費を主な財源としたこの整備計画は3年ごとに見直しを行い、2016（平成28）年は「第6期学術情報基盤整備計画（平成28-30年）」によって、電子ジャーナル約6,000タイトルに加えて、アクセス・ツールを継続して整備した。大学構外からも電子ジャーナル等を利用できる環境の充実に努め、より一層の利便性向上に努めた。物理系、化学系、医学系など一部の専門分野固有の電子ジャーナルパッケージや個別タイトルについては、部局経費により契約し、利用に供している。

電子ジャーナルは、恒常的な購読価格上昇、為替レートの変動により、予算確保に苦慮している。購読価格上昇に対応するため、2011（平成23）年4月に大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）が結成され、出版社と価格及び利用条件交渉を進めている。本計画における電子資料の導入経費には、全学共通経費、部局経費及び間接経費等を充てる。また、出版社等との契約にあたっては、市場調査のほか、JUSTICEなどの関係団体とも連携しながら価格交渉を行っている。

### 1. 第6期学術情報基盤整備計画（概要）

#### (1) 対象とする電子ジャーナル

本整備計画が対象とする電子ジャーナルは、複数の専門分野をカバーするパッケージとして提供されるものとする。

#### (2) バックファイル等電子資料の整備

年間契約する電子ジャーナルの対象範囲に含まれないバックファイルや電子ブック等の電子資料についても、国内の出版動向や他大学の整備状況を注視しながら、本計画において整備を進める。

#### (3) 利用環境の整備

電子ジャーナル等を迅速・効率的に利活用するために必要なアクセス・ツール及び文献管理ツールの整備を継続して進める。大学構外からも電子ジャーナル等を利用できる環境の充実に努めるとともに、携帯機器を用いた利用支援など、より一層の利便性向上に努める。

#### (4) 導入経費等

本計画における電子資料の導入経費には、全学共通経費、部局経費及び科学研究費間接経費等を充てる。また、出版社等との契約にあ

たっては、市場調査のほか、JUSTICEなどの関係団体と連携しながら価格交渉を行う。

### 2. 購読タイトル等の見直し

第6期学術情報基盤整備計画では、電子ジャーナルについては、複数の専門分野をカバーするパッケージ系を中心に選定し、特定の専門分野のパッケージ及び個別タイトルは、原則として必要とする学部等で整備することとなった。

価格上昇に対応するため、アンケート調査やダウンロード件数などの利用状況を考慮した上で審議した結果、一部のパッケージ等は中止することとなった。平成28年より中止となったのは、「Cambridge Online Package」[ProQuest Research Library, Health and Medical Complete] [Nature 関連4誌] [New England Journal of Medicine] [RefWorks] である。この中で、「Nature Medicine」[New England Journal of Medicine] については、医学部附属病院経費にて継続される。

第6期学術情報基盤整備計画で提供している電子ジャーナル・データベース等

2016（平成28）年

電子ジャーナル/データベース名称	タイトル数	概要	備考
Elsevier ScienceDirect	約2,200	Elsevier社発行のほぼすべての電子ジャーナル	
Wiley Online Library	約1,400	Wiley Online Library収録の電子ジャーナル	
SpringerLink	約1,600	Springer社発行のほぼすべての電子ジャーナル	
Oxford Online Package	約300	Oxford University Pressの電子ジャーナル	
JSTOR : Art Sci. I, Health & General Sci.	約250	学術雑誌バックナンバーのアーカイブ	
Nature	1	Nature Publishing Group発行の電子ジャーナル	2016 (H28) 本誌以外中止
PNAS	1	米国科学アカデミー発行の電子ジャーナル	
Science	1	アメリカ科学振興協会が発行する電子ジャーナル	
Cell	1	Cell Pressが発行する電子ジャーナル	
Web of Knowledge (Web of Science + JCR)	-	自然科学・社会科学・人文学の世界代表ジャーナル・会議録・専門書を収録する引用文献データベース	
EJ Access Tools (Summon + 360LINK)	-	多様な電子リソースを横断的に検索可能なディスカバリーサービス及び電子リソース管理ツール	
Cambridge Online Package	約300	Cambridge Univ. Pressの電子ジャーナル	2016 (H28) 中止
ProQuest Research Library, Health and Medical Complete	約7,000	様々な学会や学術出版社の発行している電子ジャーナル	2016 (H28) 中止
Nature (関連4誌)	4	Nature Publishing Group発行の電子ジャーナル	2016 (H28) 中止/ 一部は部局経費で継続
New England Journal of Medicine	1	マサチューセッツ内科外科学会発行の学術雑誌	2016 (H28) 中止/ 部局経費で継続
RefWorks	-	文献情報管理および論文作成支援ツール	2016 (H28) 中止



# ■ 研究開発室の活動状況

附属図書館研究開発室は、図書館業務及び図書館サービスの向上を図ることを目的として、室員が専門的な立場から図書館に関わる課題についての研究開発を行うために2006（平成18）年に設置された。2016（平成28）年度は、下表の体制により、戦略的機能強化推進経費の配分を受けて事業を行った。

2015（平成27）－2016（平成28）年度 室員名簿

委嘱名	所属・職名	氏名	テーマ	委嘱名	所属・職名	氏名	テーマ
室長	館長	杉江 実郎	研究開発室の統括	副室長	医学図書館長	杉本 利嗣	研究開発室の統括 (医学図書館関連)
顧問	島根大学名誉教授	松尾 壽	記録史料(近世)	顧問	島根大学名誉教授	常松 正雄	英米文学
室員	法文学部教授	田中 則雄	和古書(国文学)	室員	法文学部准教授	野本 瑠美	和古書(国文学)
室員	法文学部教授	小林 准士	記録史料(近世)	室員	元職員	加本 純夫	記録史料(近世)
室員	教育学部教授	森本 直人	教科書データベース	室員	教育学部教授	権藤 誠剛	教科書データベース
室員	医学部教授	岩田 淳	西東文庫				

## 1. 桑原文庫の調査・研究

### ○室員

田中則雄（法文学部教授）  
小林准士（法文学部教授）  
野本瑠美（法文学部准教授）

桑原家より新たに寄贈を受けた第2期寄贈分（2013〈平成25〉年度）及び第3期寄贈分（2014〈平成26〉年度）の整理を進めた。第2期寄贈分の保留としていた資料及び第3期寄贈分について整理方針を決定し、桑原羊次郎・相見香雨研究会の協力を得て整理を進めている。

## 2. 教科書データベースの作成

### ○室員

森本直人（教育学部教授）  
権藤誠剛（教育学部教授）

2015（平成27）年度までに、戦前期の児童・生徒用教科書及び旧制松江高等学校・師範学校の教科書のデータベース登録が完了したため、2016（平成28）年度は戦後の現行検定教科書の登録作業を進めた。作業は、学内ワークスタディの学生が書架上での配架調整（並べ直し）と請求記号の付与を行い、職員がデータベース登録を行った。小学校及び中学校の教科書のデータベース登録が完了し、高等学校の教科書の登録が約5割終了した。

## 3. 西東文庫の調査・研究

### ○室員

岩田 淳（医学部教授）

2015（平成27）年度まで2年間にわたって企画展示のためのパネル作成を行ったが、2016（平成28）年度は、補修が必要な図書の内、特に緊急を要するものの修理を行った。

## 4. 「御用頭書」の解読及び研究

### ○室員

加本純夫（元図書館職員）  
松尾 壽（研究開発室顧問／島根大学名誉教授）

御用頭書（松江市雑賀町の野津家所蔵）は、松江藩士羽山重樹による文久2年11月22日から文久3年8月23日までの日記である。所

蔵者である野津隆氏（故人）による手書き解読原稿の文字起こしを行い、2016（平成28）年度も引き続き、校正作業を進めた。

## 5. デジタルアーカイブ・システム

### ○室員を置かず職員が対応する

2016（平成28）年度は、デジタルアーカイブ・システムについて次のとおり改善を行った。

#### 1) デジタルアーカイブ上での管理番号の変更

デジタルアーカイブ上での管理番号を所蔵データベース(OPAC)の管理番号である資料番号に変更した。このことにより、OPACの検索結果からデジタルアーカイブ上のコンテンツへのリンクが容易に行えるようになるとともに、資料現物とデジタルアーカイブ上のコンテンツの対応付けが容易にできるようになり、コンテンツ管理がしやすくなった。

#### 2) 新システム(Open Earmas)の導入

公開システムとして新たにOpen Earmasを導入し、システム構築を行った。新システムはOAI-PMHに対応しているため、メタデータを外部システムに提供することが可能となる。このため、将来的に国立国会図書館サーチなどの外部システムにメタデータを提供し、連携が可能となる。

#### 3) PDFファイル変換の自動化

JPEGファイルからPDFマルチファイルへの変換プログラムを作成し、PDFファイル変換作業の省力化を図った。

## 6. 資料のデジタル化

### ○室員を置かず職員が対応する

2016（平成28）年度は「附属図書館史資料デジタル化方針」を策定し（平成28年12月15日附属図書館運営会議承認）、方針に従って資料のデジタル化を進めた。戦略的機能強化推進経費及び学内ワークスタディにより、次のとおりデジタル化を行った。これによって、デジタル化方針の今年度の目標（550冊）を達成でき、これまでの累計で主要な史資料の52%のデジタル化を行った。

・桑原文庫 560冊  
・抄物 152冊

## ■大学COC/COC+事業への参画 —地域の情報を集積して発信—

島根大学は、2013（平成25）年度より文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」として「課題解決型教育（PBL）による地域協創型人材養成」（しまだいCOC）の採択を受けて、地域社会と連携しながら全学をあげて地域を志向した教育・研究・社会貢献の事業を推進している。また、2015（平成27）年には、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」として、「地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業」（オールしまねCOC+事業）の採択を受け、地域人材育成のためのプロジェクトを展開しているところである。

附属図書館は、しまだいCOC事業及びオールしまねCOC+事業の一環として、地域未来戦略センターと共同で、しまね地域資料リポジトリGO-GURaと地域コミュニティラボの運用を開始した。

### 1. しまね地域資料リポジトリGO-GURa

#### (1) 概要

しまね地域資料リポジトリGO-GURa（郷蔵）は、島根県内の各種団体が発行する様々な資料を電子的に蓄積し、公開する“電子書庫”である。しまだいCOC事業の一環として、附属図書館と地域未来戦略センターが共同で開発したもので、2016（平成28）年11月1日公開した。地域資料を必要としている人が気軽にアクセスし、本学の地域志向型教育・研究、市民の生涯学習等を支援することを目的としている。GO-GURaのように特定の都道府県内の行政機関をはじめとする各種団体が発行する資料を、広域的に収集し、電子的に公開するシステムは、これまで全国に例がなく、本学の取り組みが全国初となる。

GO-GURaに参加することができる機関は、島根県内に事業所を置く各種団体、即ち、地方公共団体その他の行政機関、教育機関、研究機関、NPO法人、企業、その他の団体である。登録できる資料は、上記の各種団体が発行する資料であり、図書館が従来から「地域資料」として収集保存してきたものの電子版である。

#### (2) 現況（2017（平成29）年6月14日現在）

現在の参加機関及び登録状況は次のとおりである。

・参加機関	18機関
《内訳》	地方自治体（下部組織を含まない） 12
	大学（下部組織を含まない） 2
	各種法人 2
	その他の団体 2
・登録件数	5,867件
《内訳》	広報資料 5,214      計画 457
	歴史資料 101      報告書 72
	統計 22      規則 1

現在は、地域未来戦略センターが新規参加機関の開拓を行い、附属図書館がシステムの運用とコンテンツの代行登録を行っている。

#### (3) 活用と将来展望

本学が進める「地域志向教育」の課題解決型授業（PBL）での活用の他、小中高校での調べ学習、個人による地域研究、そして、図書館でのレファレンスツールとしての活用が可能となる。登録コンテンツが増えていくことで、さらなる活用の幅が広がることが期待される。

現在は、附属図書館が代行登録を行っているが、将来的には、発行機関自らが資料を発行する都度登録する方式に移行していく方針である。

GO-GURaへのアクセス <http://coc.lib.shimane-u.ac.jp/ja>

### 2. 地域コミュニティラボ

#### (1) 概要

地域コミュニティラボは、オールしまねCOC+事業の「しまねクリエイティブラボネットワーク」の一つとして、本館展示室を利用して2017（平成29）年1月に開設された。地域では、地元企業や行政機関、NPO法人など様々な団体が多彩な活動を行っており、これらの団体の活動や成果を、学生や大学を訪れた市民の方が大学内において身近に触れることができる場として、展示室を「地域コミュニティラボ」としても活用できるようにしたものである。ラボの展示をとおして、学生や市民の方がこれまで以上に地域に目を向けて、地元の企業や行政機関、NPO法人などの活動に関心をもつきっかけとなることを期待している。

#### (2) 第1回展示

ラボ開設記念展示として、島根県鋳鉄鋳物工業組合の加盟企業による「鐵の造形 —島根県鋳鉄鋳物産業の技と匠」を開催した。「たたら製鉄」だけではない、もう一つの「鉄の島根」の魅力である鋳鉄鋳物産業の世界を本学学生や市民に知ってもらおうことを目指したものである。鋳鉄鋳物産業は、生産量・生産金額ともに全国第4位を誇る島根県の基幹産業であり、磨き上げられてきた職人の高度な技術に加え、3Dプリンターの導入により新たな進化を遂げる鋳鉄産業が紹介された。

日時：2017（平成29）年1月28日（土）～2月10日（金）

場所：附属図書館（本館）展示室

主催：島根大学／島根県鋳鉄鋳物工業組合



## ■ 社会貢献 — 学術情報の提供をとおして —

附属図書館は、所蔵資料等の提供をとおして様々な形での社会貢献活動を行っている。すなわち、県内の図書館ネットワークによる図書の貸出や古典籍等の資料の展示貸出、出版物への掲載や放映のための資料提供などである。さらに、古典籍等の学術的資料を活用した企画展示や関連するシンポジウムを開催することによって、わかりやすい形での学術情報の提供に努めている。ここでは、2016（平成28）年度に学外の機関と連携して実施した取り組みを中心に報告する。

### 1. 「松江が生んだ美術史家・相見香雨『自筆調査録』展

松江出身の美術史家である桑原羊次郎（1868-1956）と相見香雨（1874-1970）の業績を現代の視点から検証し研究することを目的として、2014（平成26）年度に桑原羊次郎・相見香雨研究会（代表：村角紀子氏）が設立された。同研究会は、九州大学附属図書館が所蔵する「相見香雨自筆調査録」（全240冊）を全冊借受け、本学図書館に保管して撮影を行った。この自筆調査録は、相見が審美書院に入社した翌年の1909（明治42）年から書き始められ、1967（昭和42）年まで書き継がれたもので、日本美術に関する様々な調査記録が綴られている。

自筆調査録の撮影が完了したことから、九州大学に返却する前に、これまでの調査の成果と自筆調査録を地元松江で初公開することを目的として本企画展を開催したものである。展示期間中の7月20日と30日には、研究会メンバーによる展示解説が行われ、地元の美術史や郷土史の愛好家などが解説に聞き入った。期間中には約300人の来場者があり、地元松江でも知る人が少なくなった相見香雨を地元の方に知っていただくよい機会となった。

日時：2016（平成28）年7月11日（月）～7月31日（日）

場所：附属図書館（本館）展示室

主催：桑原羊次郎・相見香雨研究会／附属図書館



パネリスト：

坂本敬司（新鳥取県史編さん委員会近世部会委員）

原 豊二（ノートルダム清心女子大学文学部准教授）

山崎真克（比治山大学現代文化学部教授）

昌子喜信（島根大学附属図書館）

河本家は尼子氏の重臣を祖先に持ち、近世には代々大庄屋を勤めた家で、同家に伝わる古典籍800点余、約4,800冊は、地方の民間のものとしては極めて大規模な蔵書である。

原准教授の基調講演では、調査開始以来の軌跡を振り返りながら、河本家古典籍の全体像と特色、意義が解説された。パネルディスカッションでは、田中教授のコーディネートにより、4人のパネリストが自身の研究や業務での関わりを通して見た河本家古典籍について議論した。シンポジウムを通して、河本家古典籍の研究とデジタル化事業の現状が分かり易く整理され、今後の展望を明らかにすることができた。



### 3. 「江戸カ — 手銭家蔵書から見る出雲の文芸 —」展

（公財）手銭記念館（出雲市大社町）と法文学部山陰研究センター・附属図書館による出雲文化活用プロジェクトは、2014（平成26）年度から毎年文化庁の助成金を得て、手銭家所蔵資料の調査研究、翻刻、デジタル化を進め、その成果をもとにシンポジウム、連続講座、ワークショップ等を開催してきた。本企画展は、2016（平成28）年度の事業の一つとして附属図書館展示室において開催したものである。

これまでの蔵書調査で、江戸時代の出雲大社周辺地域では、和歌や俳諧をはじめとする独自の文芸活動が盛んに展開され、手銭家蔵書はこれらの文芸活動の諸相を具体的に示す貴重な資料であることが分かってきた。この企画展は、和歌と俳諧を中心とした手銭記念館所蔵資料によって、出雲大社周辺地域における江戸時代の文芸活動の様相や変遷をたどることを目指したものである。

期間中の11月17日に行われた展示解説では、同館の学芸員が手銭家蔵書の中から新たに発見された資料により、江戸時代末期の出雲地方では和歌（雅な文芸）と俳諧（俗な文芸）が同じ師によって指導され、俗雅の区別なく楽しまれていたことがわかることなど、展示の見どころについて解説を行った。同館のコレクション展は松江では初めての開催であり、手銭家蔵書を市民に知ってもらいたい機会となった。

日時：2016（平成28）年11月9日（水）～11月30日（水）

場所：附属図書館（本館）展示室

主催：出雲文化活用プロジェクト

### 2. シンポジウム「古典籍発見の軌跡とその展望」

附属図書館は、国指定重要文化財河本家住宅保存会（鳥取県東伯郡琴浦町）と共同で図書館振興財団の助成金を得て、2014（平成26）年度から3カ年計画で河本家所蔵古典籍のデジタル化事業を進めてきた。事業の最終年度となる2016（平成28）年10月に、河本家古典籍の調査が開始されてから現在に至るまでの調査研究とデジタル化の成果を総括するシンポジウムを開催した。

日時：2016（平成28）年10月30日（日）13:00～16:30

場所：琴浦町生涯学習センター「まなびタウンとうはく」

主催：国指定文化財河本家住宅保存会／附属図書館

#### ○基調講演

「河本家の古典籍の全体像と特色 — 調査開始以来の歩み —」

原 豊二（ノートルダム清心女子大学文学部准教授）

#### ○パネルディスカッション

コーディネータ：田中則雄（島根大学法文学部教授）

## ■ 図書館コンシェルジュの活動

「図書館コンシェルジュ」とは、学生スタッフが職員と協働し、附属図書館におけるピアサポートを進めるとともに、学生の視点によるサービスの改善等を目的とする取り組みである。こうした取り組みは広く学生協働と呼ばれ、本学では、教育推進センター（旧称：教育開発センター）の協力のもと全学のピアサポートプログラム（正課PSP）の一環として、2010（平成22）年度より行っている。2016（平成28）年度は前年度の経験者16名を含む29名が図書館コンシェルジュとして活動を行った。

2016（平成28）年度は、前年度に引き続き「自主企画活動」および「利用サポート活動」の二つを柱とし、「学生協働交流シンポジウム」への継続参加のほか、図書館総合展で初めて開催された「全国学生協働サミット」や、オールしまねCOC+事業として開催された「しまね大交流会2016」へも参加し、活動内容についてコンシェルジュが発表を行っている。

### 1. 自主企画活動

自主企画活動とは、コンシェルジュが自主的に企画を立案し実行するものであるが、企画内容に応じて職員も関わりながら協働により実施する場合もある。2015（平成27）年度以降、全体を「イベントチーム」「展示・グッズチーム」「広報チーム」という3つのチームに分け、それぞれのチームの特性に応じた企画を実施している。

#### 〈イベントチーム〉

- ・絵本の読み聞かせ
- ・ラーコモカフェ
- ・ただ日本語で話すだけ@ラーニングcommons
- ・読書会 など

#### 〈展示・グッズチーム〉

- ・ブック★コンパス（図書企画展示）
- ・ブックカバー作成・設置
- ・館内飾りつけ（七夕／ハロウィン／冬）
- ・「松江市立中央図書館の団体貸出」を利用した選書・展示

#### 〈広報チーム〉

- ・月刊広報誌LiMeの編集・発行

その他、チーム横断的な企画として、オープンキャンパスにおいて図書館謎解きゲーム、館内ツアーガイドなども行った（8月7日、8日）。

上記のうち、学内の他部局や学外機関等と連携して行ったものをいくつか紹介する。

「ラーコモカフェ」は、学生たちが普段あまり話す機会のない学内外の様々な人々をゲストとして附属図書館のラーニングcommonsに招き、聴き手との対話を通じた交流を行おうという趣旨で、服部学長をゲストに迎えた2015（平成27）年度の第1回に続き、計3回開催した。

- 第2回（7月1日） ゲスト：法文学部 武田信明教授
- 第3回（11月9日） ゲスト：留学経験のある学生
- 第4回（1月18日） ゲスト：国際交流課職員

「松江市立中央図書館の団体貸出」は、松江市立中央図書館の団体貸出制度を利用して、コンシェルジュが実際に中央図書館に出向いて100冊を選び、約2ヶ月間附属図書館に展示するという企画である。2016年度は計5回実施した。

### 2. 利用サポート活動

利用サポート活動は、主に附属図書館のカウンターにおいて図書館の使い方や資料の探し方など利用者からの質問や相談に対応するもの

で、正課PSPによる予算支援を受けて行っている。この活動の意義は次に挙げる2点である。1点目は、図書館の利用者、特に学生に対して、コンシェルジュが対応することで質問や相談をしやすい環境を提供することができる。2点目は、コンシェルジュにとって、利用者の質問に対応することで、自身の知識を増やし、スキルを高める機会となりうる。2016（平成28）年度の実施状況は以下の通りである。

利用サポート実施状況 2016(平成28)年度

月	活動可能 日数	A)活動可能 コマ数	B)活動した コマ数	実施率 (B/A)	C)質問 件数	コマ当たり 質問件数(C/B)
4月	0	0	0	0.0%	0	0.0
5月	17	65	59	90.8%	54	0.9
6月	22	82	68	82.9%	41	0.6
7月	21	76	64	84.2%	46	0.7
8月	4	15	13	86.7%	14	1.1
9月	0	0	0	0.0%	0	0.0
10月	8	9	9	100.0%	6	0.7
11月	20	64	63	98.4%	98	1.6
12月	16	52	46	88.5%	55	1.2
1月	18	57	53	93.0%	91	1.7
2月	8	25	19	76.0%	23	1.2
3月	0	0	0	0.0%	0	0.0
合計	134	445	394	88.5%	428	1.1

### 3. 学生協働交流シンポジウムへの参加

学生協働交流シンポジウムは、様々な大学の図書館で活動する学生協働スタッフが各大学の取り組みを共有し、交流する場として2011（平成23）年より毎年開催されている。2016（平成28）年は第6回目となり、9月15日（木）、9月16日（金）に香川大学で開催された。参加した大学数は32、合計の参加人数は143人に上った。

### 4. 全国学生協働サミットへの参加

全国の大学図書館における学生協働の取り組みについて学生・教職員が報告・意見交換を行うもので、全国の図書館関係者が一同に集うものとしては最も規模の大きなイベントである図書館総合展の会場で今回初めて開催された。コンシェルジュ2名、職員1名が参加した。

日時：2016（平成28）年11月10日（木）

会場：パシフィコ横浜

### 5. しまね大交流会2016への参加

オールしまねCOC+事業として開催された「しまね大交流会」にコンシェルジュが活動内容を紹介するためのポスター展示を行った。

日時：2016（平成28）年12月11日（日）

場所：松江くびきメッセ

## 2016(平成28)年度データ

各種統計の詳細版は図書館HPの以下のページで公開している。  
<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/tokei>

		本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)	合 計	
開 館 日 数	平 日	233	241		
	土 ・ 日 ・ 祝 日	70	81		
	合 計	303	322		
利 用 対 象 者 数 (2017年5月1日現在)	教 職 員	2,948		2,948	
	学 生	5,001	1,179	6,180	
	学 外 者	807	74	881	
	合 計			10,009	
入 館 者 数	学 生 ・ 教 職 員	307,618	134,017	441,635	
	学 外 者	9,788	260	10,048	
	合 計	317,406	134,277	451,683	
貸 出 冊 数	学 生	53,631	12,871	66,502	
	教 職 員	5,598	2,273	7,871	
	学 外 者	4,585	418	5,003	
	合 計	63,814	15,562	79,376	
蔵 書 冊 数 (2017年3月31日現在)	和 漢 書	670,254	70,634	740,888	
	洋 書	157,334	66,017	223,351	
	合 計	827,588	136,651	964,239	
図 書 受 入 冊 数	和 漢 書	購 入	8,250	1,869	10,119
		寄 贈 ・ そ の 他	15,330	254	15,584
		計	23,580	2,123	25,703
	洋 書	購 入	795	193	988
		寄 贈 ・ そ の 他	600	15	615
		計	1,395	208	1,603
	合 計	24,975	2,331	27,306	
雑 誌 所 蔵 種 類 数	和 雑 誌	8,616	1,958	10,574	
	洋 雑 誌	2,918	1,762	4,680	
	合 計	11,534	3,720	15,254	
雑 誌 受 入 種 類 数	和 雑 誌	購 入	540	167	707
		寄 贈 ・ そ の 他	1,072	168	1,240
		計	1,612	335	1,947
	洋 雑 誌	購 入	116	24	140
		寄 贈 ・ そ の 他	19	27	46
		計	135	51	186
合 計	1,747	386	2,133		
資 料 費 (千円)	図 書	15,628	5,181	20,809	
	図 書 ( 戦 略*1)	5,000	0	5,000	
	雑 誌	5,840	4,689	10,529	
	小 計	26,468	9,870	36,338	
	デ ー タ ベ ー ス	10,212		10,212	
	電 子 ジャ ー ナ ル 経 費*2	102,929		102,929	
	電 子 ジャ ー ナ ル ( 戦 略*3)	399		399	
合 計			149,878		
文 献 複 写 件 数	受 付	806	785	1,591	
	国 内 依 頼	1,793	1,042	2,835	
	海 外 依 頼	0	0	0	
現 物 貸 借 件 数	貸 出	300	17	317	
	借 受	378	10	388	

\*1 戦略的機能強化推進経費 (P.7参照) での購入分

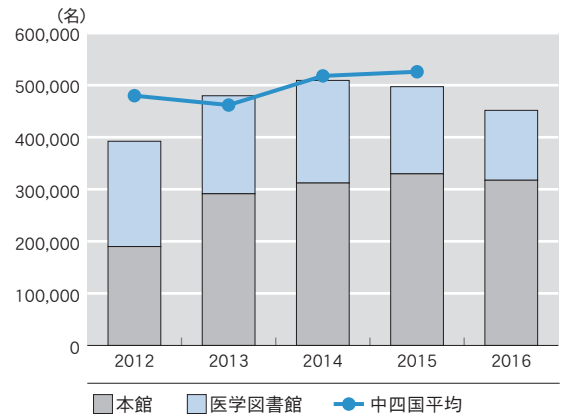
\*2 学術情報基盤整備計画 (P.8参照) にかかる経費相当分

\*3 戦略的機能強化推進経費 (外国語教育強化) での契約分

## 利用者

### ■入館者数

		2012	2013	2014	2015	2016
本館	学 生	-	271,653	290,934	309,620	297,697
	教 職 員	-	9,427	10,705	9,659	9,921
	学 外 者	-	10,319	10,403	10,427	9,788
	小 計	189,974	291,399	312,042	329,706	317,406
医学図書館	学生・教職員	201,885	187,988	196,834	167,042	134,017
	学 外 者	448	348	359	418	260
	小 計	202,333	188,336	197,193	167,460	134,277
合 計	392,307	479,735	509,235	497,166	451,683	
中 四 国 平 均	479,857	461,860	517,860	525,830	-	

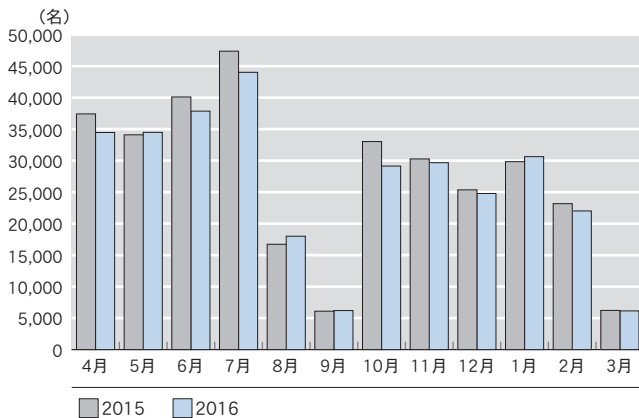


※本館は2012年度に耐震・改修工事を行ったため、入館者数の内訳は不明。

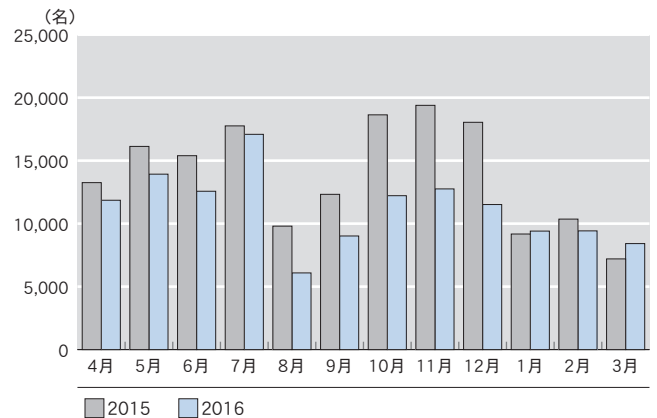
※中四国平均は、「日本の図書館：統計と名簿」（日本図書館協会編）に掲載の中国四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校（学部数2～7学部）7校（広島・岡山・鳴門教育大学を除く）の平均値を用いた。（以下同様）

### ■月別入館者数

本館



医学図書館



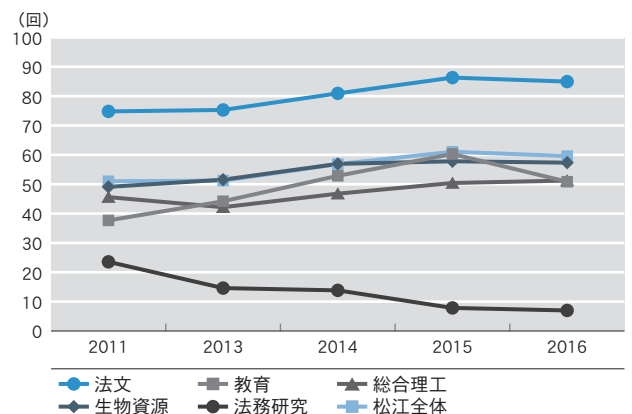
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本館	2015	37,416	34,097	40,112	47,376	16,721	6,097	33,029	30,272	25,361	29,836	23,168	6,221
	2016	34,468	34,486	37,856	44,020	17,998	6,194	29,140	29,674	24,781	30,630	22,013	6,146
医学図書館	2015	13,254	16,129	15,392	17,758	9,801	12,325	18,635	19,389	18,043	9,175	10,359	7,200
	2016	11,855	13,926	12,569	17,088	6,087	9,019	12,217	12,755	11,515	9,407	9,424	8,415

### ■学生1人あたりの年間平均来館回数（本館）

学部	2011	2012	2013	2014	2015	2016
法 文	74.80	-	75.29	80.93	86.31	84.95
教 育	37.68	-	44.19	52.86	60.29	50.85
総合理工	45.60	-	42.17	46.78	50.41	51.25
生物資源	49.09	-	51.54	56.92	57.81	57.34
法務研究	23.56	-	14.62	13.84	7.86	7.00
松江全体	51.00	-	51.23	56.85	61.05	59.58

※医学図書館は入館ゲートがないため算出不可。

※2012年度は本館の耐震・改修工事のため、入館者数の内訳は不明。

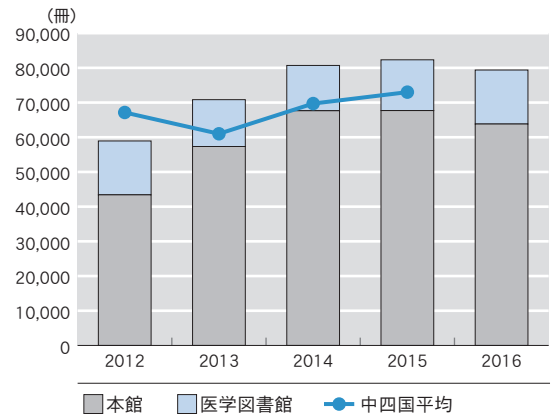


## 貸出

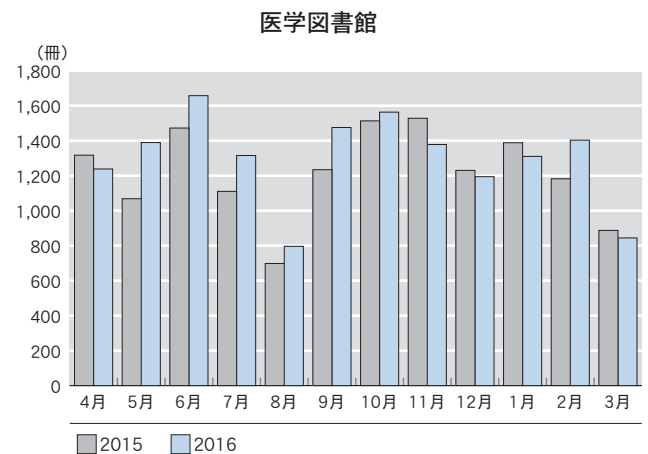
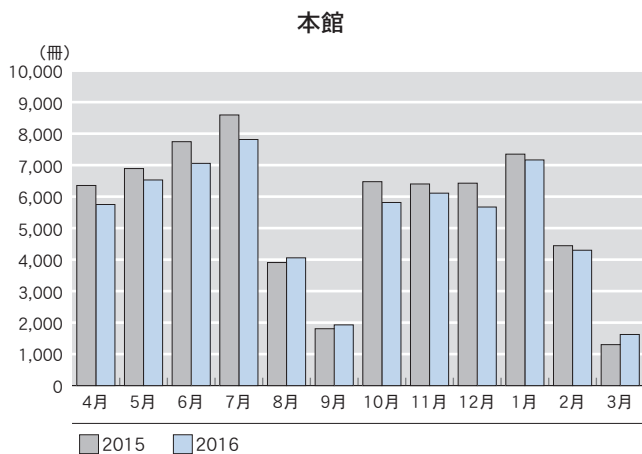
### 貸出冊数

		2012	2013	2014	2015	2016
本館	学 生	38,734	48,098	57,367	57,301	53,631
	教 職 員	2,984	5,672	6,015	5,851	5,598
	学 外 者	1,686	3,565	4,263	4,541	4,585
	小 計	43,404	57,335	67,645	67,693	63,814
医学図書館	学 生	13,085	11,500	11,051	12,421	12,871
	教 職 員	2,010	1,629	1,709	1,688	2,273
	学 外 者	431	370	291	518	418
	小 計	15,526	13,499	13,051	14,627	15,562
合 計		58,930	70,834	80,696	82,320	79,376
中 四 国 平 均		67,142	61,000	69,710	73,000	-

※本館は2012年度に耐震・改修工事を行ったため、貸出冊数が減少している。  
 ※延長貸出も回数としてカウントしている。



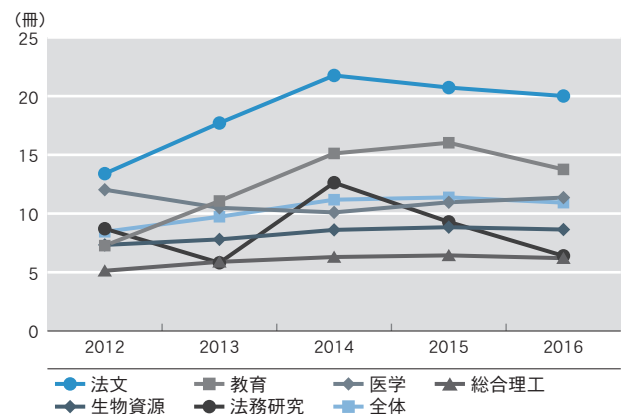
### 月別貸出冊数



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本館	2015	6,354	6,891	7,745	8,593	3,908	1,806	6,475	6,402	6,427	7,349	4,442	1,301
	2016	5,750	6,529	7,056	7,814	4,057	1,928	5,814	6,110	5,670	7,165	4,298	1,623
医学図書館	2015	1,317	1,068	1,472	1,110	698	1,234	1,513	1,528	1,230	1,388	1,182	887
	2016	1,238	1,389	1,657	1,315	796	1,475	1,563	1,378	1,194	1,310	1,403	844

### 学生1人あたりの年間平均貸出冊数

学部	2012	2013	2014	2015	2016
法 文	13.40	17.71	21.76	20.73	20.01
教 育	7.27	11.07	15.12	16.03	13.76
医 学	12.03	10.49	10.10	10.96	11.36
綜合理工	5.13	5.89	6.30	6.44	6.20
生物資源	7.33	7.80	8.61	8.84	8.64
法務研究	8.71	5.81	12.63	9.29	6.40
全 体	8.45	9.73	11.18	11.38	10.93



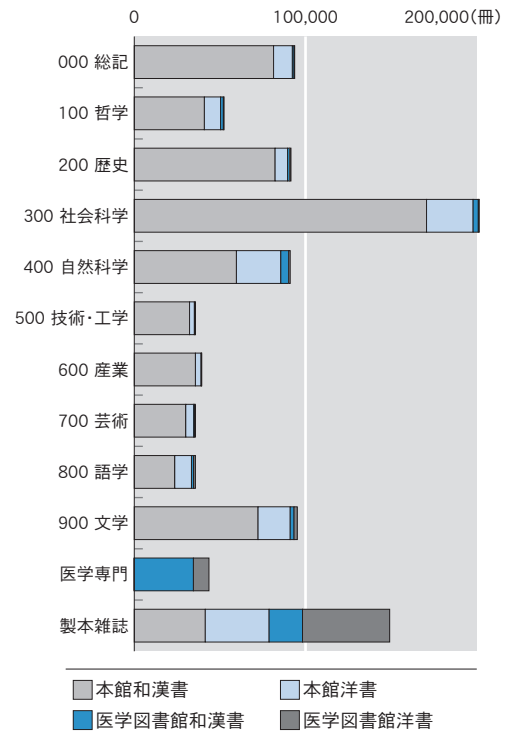
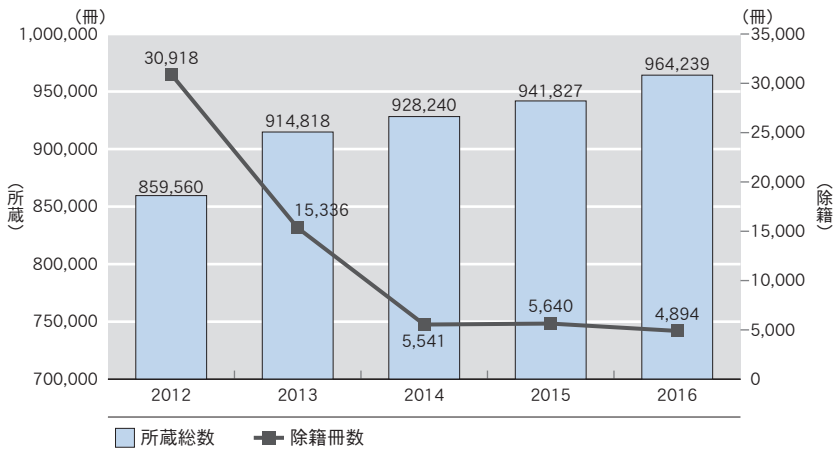
# 統計

## 図書

### ■蔵書冊数（分類別）

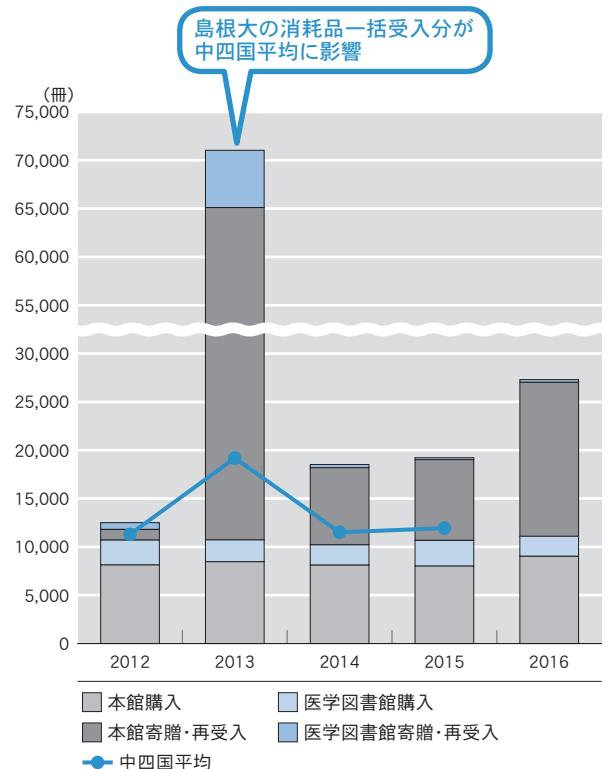
分類	本館			医学図書館			合計
	和漢書	洋書	小計	和漢書	洋書	小計	
000 総記	81,342	10,976	92,318	994	355	1,349	93,667
100 哲学	40,945	9,444	50,389	1,641	412	2,053	52,442
200 歴史	82,243	7,283	89,526	1,316	658	1,974	91,500
300 社会科学	170,663	27,204	197,867	3,038	560	3,598	201,465
400 自然科学	59,649	25,919	85,568	4,580	920	5,500	91,068
500 技術・工学	32,281	2,821	35,102	481	33	514	35,616
600 産業	35,714	3,288	39,002	296	26	322	39,324
700 芸術	30,075	4,595	34,670	731	136	867	35,537
800 語学	23,645	9,755	33,400	1,243	1,058	2,301	35,701
900 文学	72,288	18,783	91,071	2,220	1,880	4,100	95,171
医学専門	2	0	2	34,540	9,070	43,610	43,612
製本雑誌	41,478	37,270	78,748	19,485	50,903	70,388	149,136
合計	670,325	157,338	827,663	70,565	66,011	136,576	964,239

※2017年3月31日現在の数値。ただし、分類や和洋区分については常に若干数の変更がある。



### ■受入冊数

館	種別	年					
		2012	2013	2014	2015	2016	
本館	和漢書	購入	7,499	7,288	7,219	7,152	7,855
		製本雑誌	0	736	641	460	395
		寄贈	911	2,216	4,859	1,492	2,304
		再受入	84	45,015	2,832	3,995	13,031
		計	8,494	55,255	15,551	13,099	23,585
	洋書	購入	655	452	275	351	651
		製本雑誌	0	0	0	70	144
		寄贈	77	200	163	115	255
		再受入	22	6,942	119	2,742	346
		計	754	7,594	557	3,278	1,396
小計	9,248	62,849	16,108	16,377	24,981		
医学図書館	和漢書	購入	1,700	1,628	1,449	1,986	1,489
		製本雑誌	525	398	390	371	380
		寄贈	599	471	169	168	162
		再受入	37	2,506	78	10	86
		計	2,861	5,003	2,086	2,535	2,117
	洋書	購入	199	133	150	170	98
		製本雑誌	147	104	105	128	95
		寄贈	45	15	25	13	5
		再受入	8	2,931	48	4	10
		計	399	3,183	328	315	208
小計	3,260	8,186	2,414	2,850	2,325		
合計	12,508	71,035	18,522	19,227	27,306		
中四国平均	11,300	19,191	11,508	11,941	-		
除籍冊数	30,918	15,336	5,541	5,640	4,894		
所蔵総数	859,560	914,818	928,240	941,827	964,239		



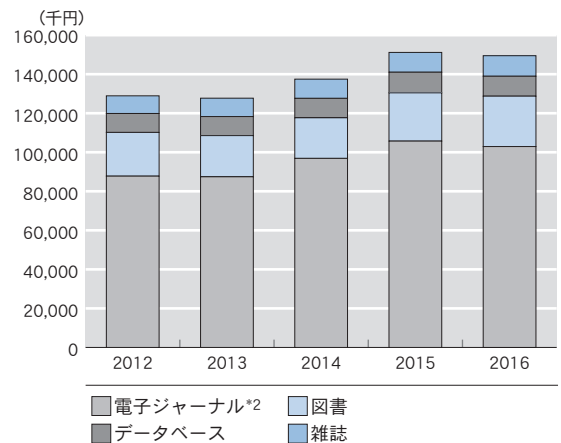


## 図書館資料費

### 図書館資料費の推移

(単位：千円)

		2012	2013	2014	2015	2016
本館	図書	16,238	15,807	15,617	15,533	15,628
	図書(戦略*1)	-	-	-	2,708	5,000
	雑誌	5,231	5,810	5,720	5,800	5,840
	小計	21,469	21,617	21,337	24,041	26,468
医学図書館	図書	6,167	5,289	5,183	5,192	5,181
	図書(戦略*1)	-	-	-	1,290	-
	雑誌	3,820	3,612	4,119	4,347	4,689
	小計	9,987	8,901	9,302	10,829	9,870
データベース		9,700	9,754	9,953	10,570	10,212
電子ジャーナル経費*2		87,766	87,439	96,870	105,719	102,929
電子ジャーナル(戦略*3)		-	-	-	-	399
合計		128,922	127,711	137,462	151,159	149,878



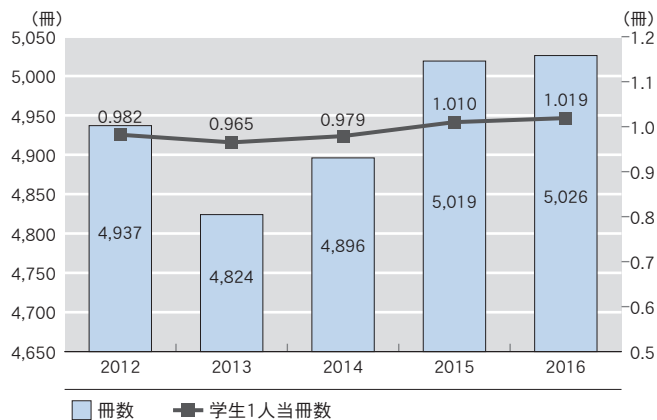
\*1 戦略的機能強化推進経費での購入分

\*2 学術情報基盤整備計画(P.8参照)にかかる経費相当分

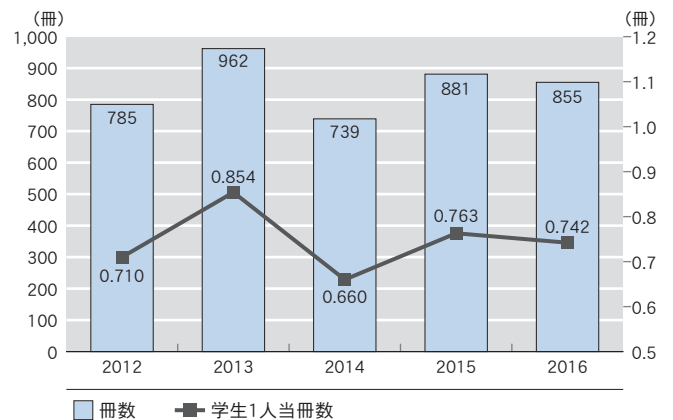
\*3 戦略的機能強化推進経費(外国語教育強化)での購入分

### 学生用図書費

#### 本館

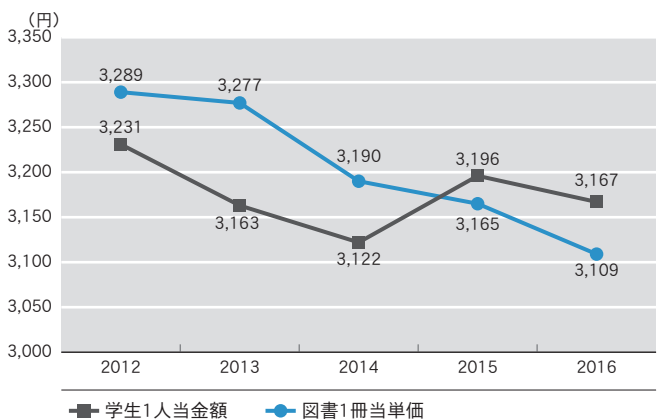


#### 医学図書館

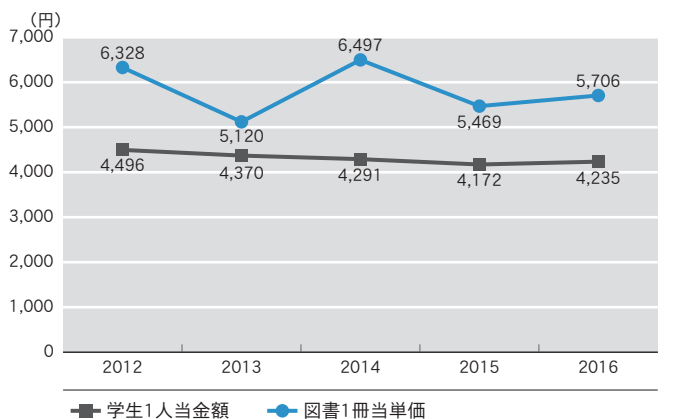


※グラフ中では比較のため、戦略的機能強化推進経費での購入分は含めていない。

#### 本館



#### 医学図書館



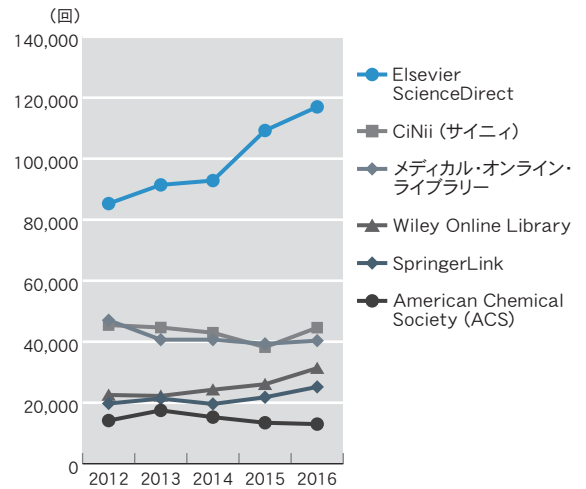
※グラフ中では比較のため、戦略的機能強化推進経費での購入分は含めていない。

## 電子ジャーナル

### ■主要電子ジャーナルの利用状況（ダウンロード数）

	2012	2013	2014	2015	2016
Elsevier ScienceDirect	85,289	91,421	92,833	109,247	116,989
CiNii (サイニイ)	45,470	44,661	42,961	38,218	44,608
メディカル・オンライン・ライブラリー	47,051	40,670	40,675	39,323	40,357
Wiley Online Library	22,542	22,237	24,275	26,063	31,343
SpringerLink	19,744	21,358	19,600	21,797	25,189
American Chemical Society (ACS)	14,160	17,490	15,273	13,442	12,994
Oxford Online Package	4,620	5,606	8,201	8,218	8,820
Nature	5,252	3,705	4,759	4,871	4,712
PNAS	1,952	2,645	2,390	2,559	2,703
Science	1,952	2,455	2,093	2,434	2,252
JSTOR	1,783	1,967	1,777	2,252	1,436
Cell	1,406	1,412	1,280	1,432	1,084

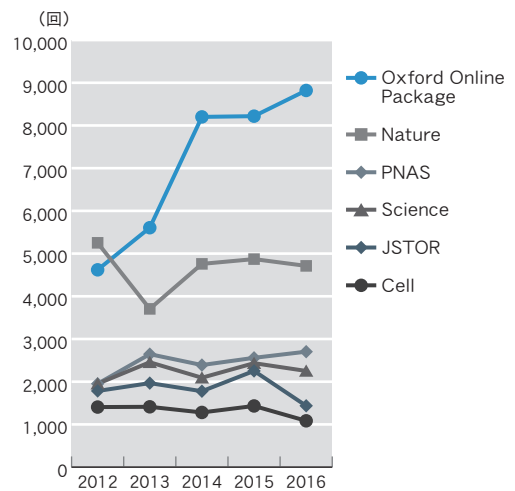
※電子資料・主要データベースの年間統計については、当該年の1月～12月で集計している。  
(他のページでは当該年度の4月～3月)



### ■電子ジャーナル契約タイトル数

電子ジャーナル契約タイトル数	通貨	数
Cell	洋	1
Elsevier ScienceDirect	洋	2,261
JSTOR*1	洋	245
Nature	洋	1
Oxford Online Package	洋	304
PNAS	洋	1
Science	洋	1
SpringerLink	洋	1,600
Wiley Online Library	洋	1,408
小計		5,822
American Chemical Society (ACS)	洋	47
American Physical Society (APS)	洋	9
British Medical Journal (BMJ)	洋	23
CiNii (サイニイ)	和	569
Karger	洋	78
Lippincott Williams and Wilkins (LWW)	洋	57
New England Journal of Medicine	洋	1
Project Euclid (Prime Collection)	洋	27
その他個別タイトル	和洋	50
メディカル・オンライン・ライブラリー	和	1,202
小計		2,063
タイトル数 合計		7,885

\*1 Art & Science Collection I, Health & General Science Collection



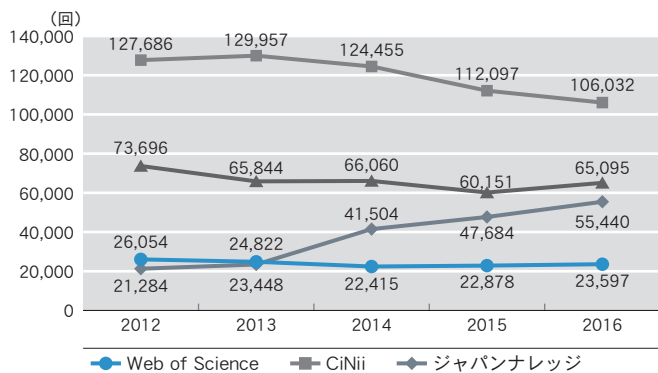
### ■利用の多い電子ジャーナルタイトル（ダウンロード数）

タイトル	プラットフォーム	2012	2013	2014	2015	2016
New England Journal of Medicine	New England Journal of Medicine	5,066	4,724	5,771	6,769	7,262
Nature	Nature	5,252	3,705	4,759	4,871	4,712
Scientific Reports	Nature	-	782	961	1,043	3,598
Journal of Biological Chemistry	HighWire Press	5,693	4,293	3,797	3,382	2,862
Journal of the American Chemical Society	ACS Publications	3,516	4,062	3,028	2,601	2,720
PNAS	HighWire Press	2,302	2,645	2,390	2,559	2,703
Blood	HighWire Press	1,882	1,538	635	1,143	2,392
Science	HighWire Press	2,304	1,952	2,093	2,434	2,252
Tetrahedron Letters	ScienceDirect	1,090	1,337	1,149	1,182	1,983
The Lancet	ScienceDirect	1,188	1,180	991	1,635	1,944
The Journal of Organic Chemistry	ACS Publications	2,986	4,047	3,406	1,807	1,817
Organic Letters	ACS Publications	1,488	2,329	1,360	1,386	1,765
Angewandte Chemie International Edition	Wiley Online Library	831	1,245	1,178	1,214	1,721
Nature Communications	Nature	-	113	186	700	1,646
Biochemical and Biophysical Research Communications	ScienceDirect	1,392	1,098	1,284	1,364	1,547
Inorganic Chemistry	ACS Publications	371	606	933	876	1,177
Cell	ScienceDirect	1,406	1,365	1,279	1,432	1,084
Journal of Mathematical Analysis and Applications	ScienceDirect	210	339	374	764	1,055
Clinica Chimica Acta	ScienceDirect	177	197	151	232	1,023
Physical Review B	APS	939	737	1,197	1,020	982
Cancer Research	HighWire Press	1,220	917	59	827	939
Chemistry - A European Journal	Wiley Online Library	355	422	593	588	900
Nature Medicine	Nature	819	878	904	775	893
The Plant Journal	Wiley Online Library	889	753	855	858	883
The Lancet Oncology	ScienceDirect	252	305	361	964	860
Journal of Nuclear Materials	ScienceDirect	734	1,078	1,300	1,254	853
Journal of Agricultural and Food Chemistry	ACS Publications	482	502	579	1,532	650
The Journal of Immunology	HighWire Press	1,254	1,213	590	675	538

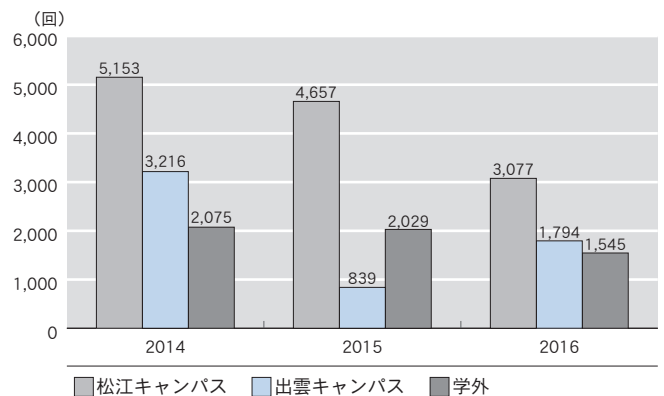
※2016年のダウンロード数が多いものから順に抽出している。

## データベース

### ■主要データベースの利用状況（検索回数）



### ■ビビットとサーチ（Summon）の利用状況



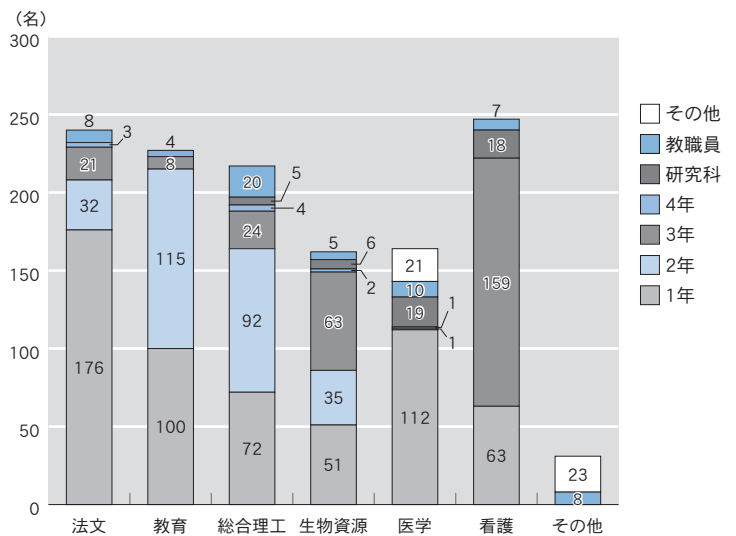
## 講習会

### ■学術情報リテラシー講習会

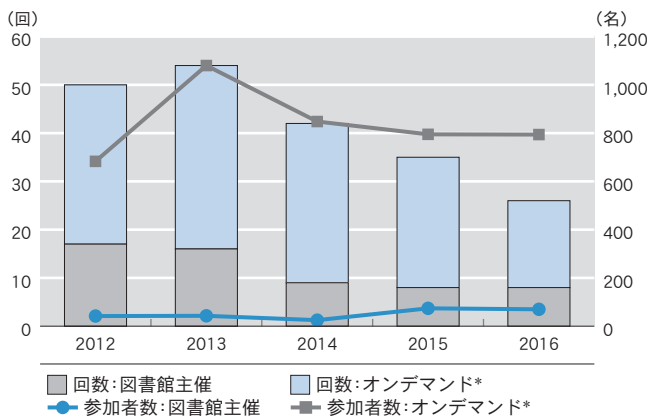
		2012	2013	2014	2015	2016
本館	図書館主催	回数 17	16	9	8	8
	参加者数	42	43	25	74	70
オンデマンド*	回数	33	38	33	27	18
	参加者数	683	1,080	848	795	794
医学図書館	図書館主催	回数 40	1	4	3	2
	参加者数	198	40	140	135	147
オンデマンド*	回数	8	41	22	15	16
	参加者数	175	467	267	251	275
参加総数		1,098	1,630	1,280	1,255	1,286

\*オンデマンドとは、教員と連携して授業内で実施したものや個々の利用者の求めに応じて開催した講習会を指す。

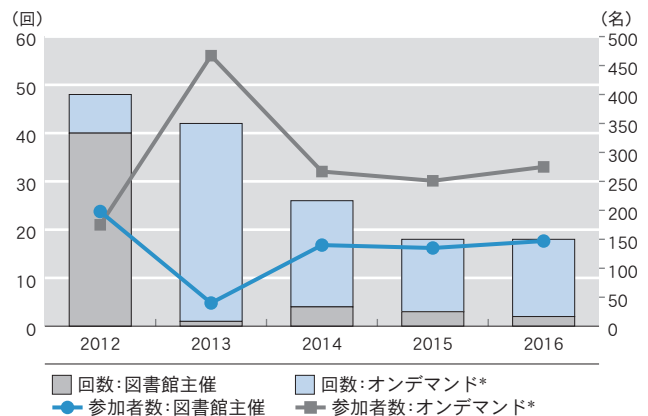
### 学部学年別参加者数



### 本館

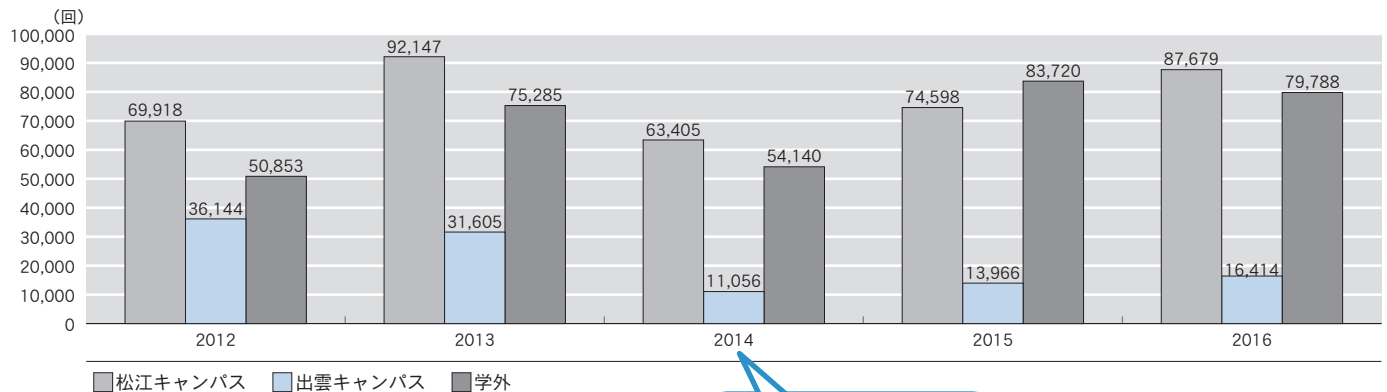


### 医学図書館



## Webサービス

### Topページアクセス数



※集計の基準を遡って変更したため、昨年度までに発行した年報と数値が異なる。  
 ※Botやクローラからのアクセスは除外して集計している。

2014年度よりHPサーバ変更

### よく利用されたメニュー

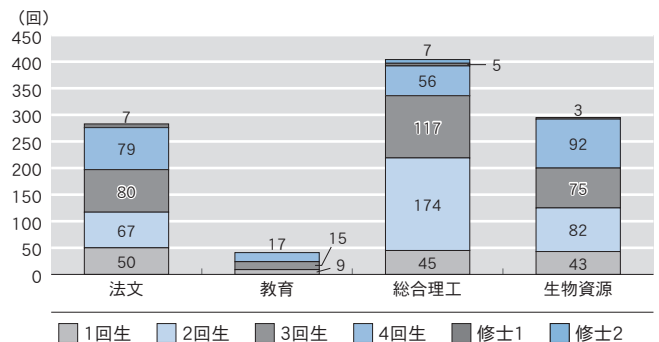
松江キャンパス			出雲キャンパス			学外		
順位	メニュー	アクセス数	順位	メニュー	アクセス数	順位	メニュー	アクセス数
1	データベースリスト	11,194	1	データベースリスト	6,057	1	図書館からのお知らせ	71,510
2	OPAC配架図	11,001	2	医学図書館利用の方	942	2	開館カレンダー	15,104
3	館内施設利用予約	5,672	3	図書館からのお知らせ	664	3	寄贈図書	8,481
4	図書館からのお知らせ	3,956	4	OPAC配架図	462	4	FAQ	6,105
5	開館カレンダー	2,477	5	開館カレンダー	266	5	データベースリスト	5,022
6	本館の利用案内	2,065	6	アンケート	157	6	本館の利用案内	4,261
7	本館利用の方	1,259	7	総合案内(医学図書館)	146	7	OPAC配架図	2,339
8	島根県図書館横断検索	629	8	医学図書館の利用案内	145	8	医学図書館利用の方	2,184
9	講習会案内	499	9	FAQ	88	9	アクセス	1,774
10	FAQ	447	10	学生用図書推薦票	72	10	本館利用の方	1,713

### 本館の『館内施設利用予約』(Web予約システム)

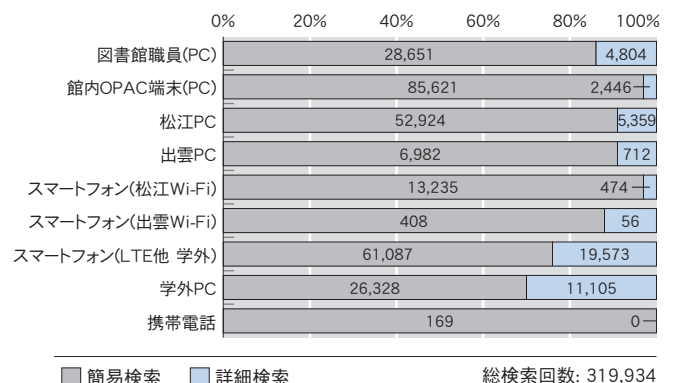
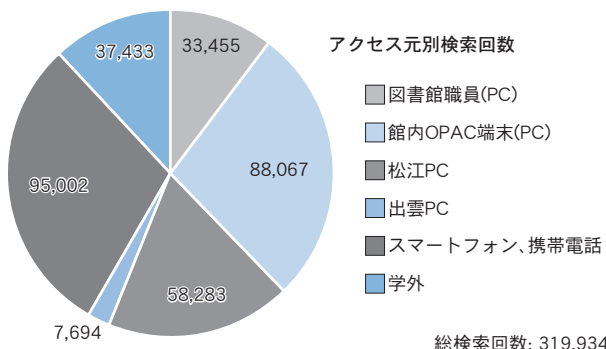
部屋名	総利用時間*1	稼働率 [%]*2
グループ学習室1	1,257時間30分	38.63
グループ学習室2	945時間30分	29.04
研究個室1	536時間30分	16.48
研究個室2	444時間15分	13.65

\*1 総利用時間とは、館内施設を実際に利用した時間を累積したもの  
 \*2 稼働率とは、利用時間を本館の総開館時間(3,255時間30分)で除算したもの  
 ※本館では、開館時間中であればグループ学習室と研究個室の利用ができ、その予約をWeb上でできるようにしている。

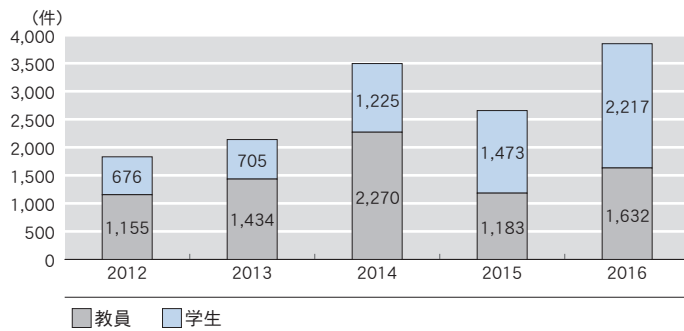
### グループ学習室1,2の利用回数



### OPAC検索回数(アクセス元別)



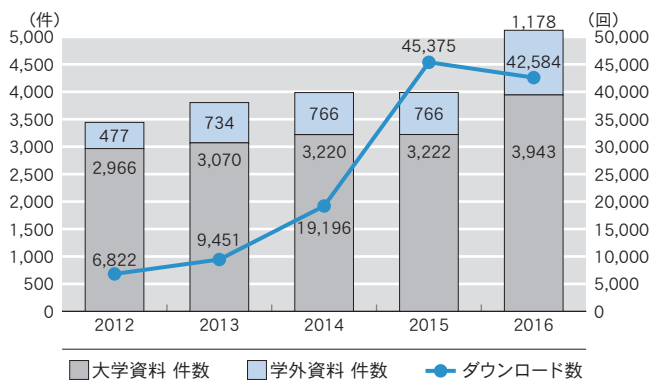
## ■EZproxy (リモートアクセス) ログイン件数



## よく利用されたサイト(アクセス数)

順位	サイト名	松江	出雲	合計
1	NCBI(PubMed)	733	46,032	46,765
2	医中誌Web	352	18,927	19,279
3	メディカル・オンライン・ライブラリー	1,051	16,265	17,316
4	American Mathematical Society	12,014	29	12,043
5	Elsevier ScienceDirect	5,029	4,011	9,040
6	CiNii	5,015	2,693	7,708
7	Web of Science	2,892	2,920	5,812
8	Wiley Online Library	1,359	2,464	3,823
9	リンクリゾルバ	460	2,493	2,953
10	New England Journal of Medicine	0	3,209	3,209

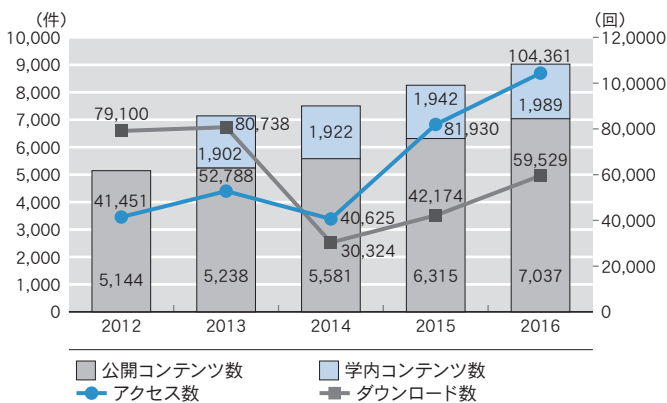
## ■デジタルアーカイブ



## よく利用されたコンテンツ(累計アクセス数)

順位	所蔵	書名	巻	アクセス数
1	貴重資料室	堀尾期松江城下町絵図		1,790
2	桑原文庫	出雲風土記抄	—	1,780
3	桑原文庫	和漢三才圖會畧 105巻巻首1巻巻尾1巻	巻之首	1,286
4	第2貴重資料室	通常動物	全	1,201
5	桑原文庫	天草原之城攻諸手仕寄場惣絵図		1,013
6	桑原文庫	出雲風土記抄	二	965
7	桑原文庫	永禄江戸圖		941
8	貴重資料室	出雲國風土記	上:能儀郡	902
9	桑原文庫	和漢三才圖會畧 105巻巻首1巻巻尾1巻	第一巻天文	890
10	桑原文庫	出雲風土記抄	三	877

## ■島根大学学術情報リポジトリ (SWAN)



## よく利用されたタイトル(ダウンロード数)

順位	タイトル	2016
1	唐代後半の北辺経済再考	2,942
2	磁気結合を利用した電力変換器の高電力密度化とその応用に関する研究	1,905
3	マツ葉枯性病害の簡易診断法の確立：マツ葉枯性病害の培地による簡易診断と防除法の探索について	1,354
4	島根県に自生する植物の生合理的利用に関する研究	799
5	次世代パワー半導体デバイス GaN HEMT の応用に向けた基礎研究	756
6	インターリーブ方式昇圧チョッパ回路のダウンサイズ化に関する一考察	744
7	Histological Detection of mmcp-4 Expressing Cells by In Situ RT-PCR Method	628
8	Simplified classification of capillary pattern in Barrett esophagus using magnifying endoscopy with narrow band imaging: implications for malignant potential and interobserver agreement	600
9	小学校体育科におけるなわとび運動の指導方法に関する研究：なわとび運動系統表の作成と有効性の検証	574
10	インターリーブ方式昇圧チョッパ回路の電流平衡制御	455

## ■しまね地域資料リポジトリ (GO-GURa)

	2016
コンテンツ数	2,865
ダウンロード数	4,314

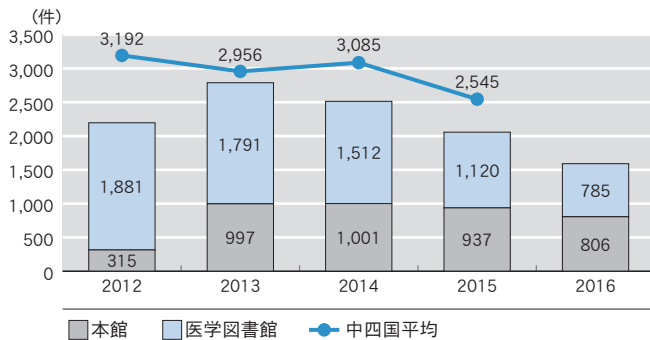
※GO-GURaの公開は2016年11月1日から

## ■相互協力

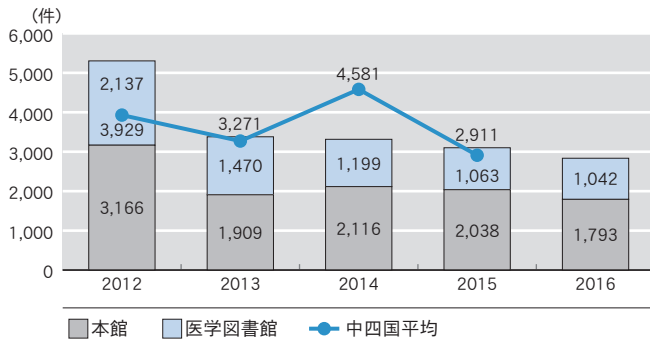
### ■文献複写件数

		2012	2013	2014	2015	2016
本館	受付	315	997	1,001	937	806
	国内依頼	3,156	1,908	2,115	2,038	1,793
	海外依頼	10	1	1	0	0
	依頼小計	3,166	1,909	2,116	2,038	1,793
医学図書館	受付	1,881	1,791	1,512	1,120	785
	国内依頼	2,136	1,470	1,199	1,063	1,042
	海外依頼	1	0	0	0	0
	依頼小計	2,137	1,470	1,199	1,063	1,042

文献複写受付件数の推移



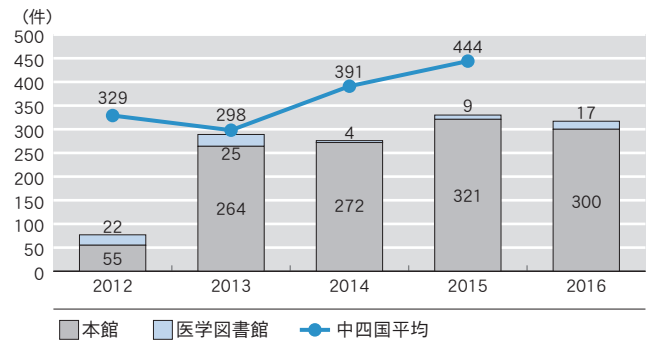
文献複写依頼（取寄）件数の推移



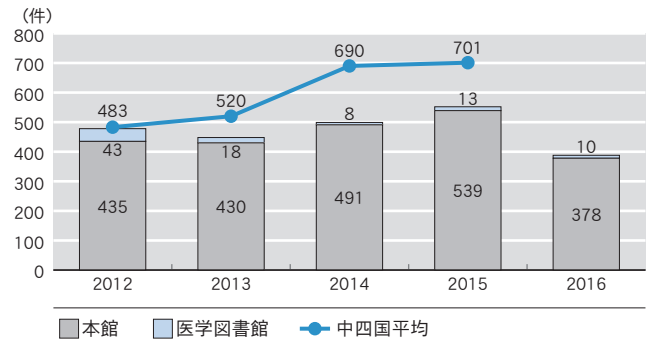
### ■現物貸借件数

		2012	2013	2014	2015	2016
本館	貸出	55	264	272	321	300
	借受	435	430	491	539	378
医学図書館	貸出	22	25	4	9	17
	借受	43	18	8	13	10

現物貸借貸出件数の推移



現物貸借貸借受の推移



### ■県内図書館間の相互貸借（本館）

	貸出冊数					借受冊数				
	2012	2013	2014	2015	2016	2012	2013	2014	2015	2016
島根県立大学（松江）	3	15	15	26	32	6	9	6	5	10
松江高専	4	1	0	7	17	0	0	0	1	2
島根県立図書館	7	6	14	23	23	11	18	24	10	21
県立以外の公共図書館	53	111	111	131	160	4	23	13	12	12
合計	67	133	140	187	232	21	50	43	28	45

### ■団体貸出

#### 松江市立図書館コーナーの貸出回数

テーマ	展示期間	展示冊数	貸出回数
児童書、絵本、料理関係本	2016/01/20~2016/03/02	110	54
コミュニケーション、恋愛、1人暮らし	2016/03/10~2016/05/10	100	77
映像化された作品、災害	2016/05/25~2016/07/06	109	55
怪談（ホラー）、旅行、アウトドア	2016/07/22~2016/09/02	97	30
〇〇の秋（食欲、読書、睡眠）、冬の過ごし方	2016/11/16~2017/01/06	106	41
温かい食べ物、バレンタイン、旅行、気軽に読める小説	2017/01/25~2017/03/10	109	35
合計		631	292

※松江市立中央図書館からの団体貸出

#### いこうる（男女共同参画図書コーナー）の貸出回数

テーマ	展示期間	展示冊数	貸出回数
キャリア・しごと、男性論、人間関係、人権	2016年4月~2016年6月	100	13
キャリア・しごと、性暴力、政治、社会、セクシュアリティ	2016年7月~2016年9月	100	2
男女共同参画、セクシュアリティ、しごと	2016年10月~2016年12月	100	30
ジェンダー、教育	2017年1月~2017年3月	100	11
合計		400	56

※国立女性教育会館からの団体貸出

## ■ 図書館日誌 (2016.4～2017.3)

年月日	事	項
2016年 4月 1日	共通 共通	機構化の見直しにより、附属図書館単独の組織に再編 図書館ホームページリニューアル・中国語版公開
4月10日	医学図書館	雑誌無料提供会を実施 (4月17日まで)
4月13日	本館	新任教員向け図書館ガイダンスを実施
4月14日	本館	男女共同参画図書コーナー開設
4月27日	医学図書館	西東文庫パネル展示のパネル入れ替え
5月16日	本館	雑誌無料提供会を実施 (5月17日まで)
5月31日	共通 本館	第1回附属図書館運営会議 第1回附属図書館本館運営会議
6月 1日	本館	グループ学習室および研究個室のWeb予約が可能に
6月 3日	医学図書館	第1回附属図書館医学図書館運営会議
6月 7日	医学図書館	講座事務担当者向け講習会 (6月8日まで)
6月 9日	本館	男女共同参画図書コーナーの愛称が公募により「いこうる」に決定
6月15日	本館	学生選書ツアーを実施
7月11日	本館	企画展「松江が生んだ美術史家・相見香雨「自筆調査録」展」を開催 (共催：桑原羊次郎・相見香雨研究会 7月31日まで)
7月16日	本館	企画展「旧制松江高校出身の異才編集者 花森安治と田所太郎」の第1期を開催 (会場：本学旧奥谷宿舎、共催：本学ミュージアム 8月28日まで)
8月22日	共通	第2回附属図書館運営会議
8月29日	共通	インターンシップとして本学学生1名を受入 (9月2日まで)
8月30日	本館	企画展「旧制松江高校出身の異才編集者 花森安治と田所太郎」の第2期を開催 (会場：本館1階展示室、共催：本学ミュージアム 10月16日まで)
9月 8日	医学図書館	中学生2名が職場体験 (9月9日まで)
9月13日	医学図書館	中学生2名が職場体験 (9月15日まで)
9月15日	本館	第6回学生協働交流シンポジウムに図書館コンシェルジュが参加 (会場：香川大学 9月16日まで)
9月20日	医学図書館	館内エレベータの更新工事 (11月30日まで)
10月 3日	本館	中学生2名が職場体験 (10月6日まで)
10月13日	共通	第57回中国四国地区大学図書館研究集會を開催 (会場：松江テルサ 10月14日まで)
10月19日	本館	蔵書リユース市を開催 (10月20日まで)
10月25日	本館	企画展「古典籍発見の軌跡とその展望」を開催 (会場：まなびタウンとうはく、共催：河本家住宅保存会 10月30日まで)
10月28日	共通	第3回附属図書館運営会議
10月30日	本館	河本家稽古有文館シンポジウム「古典籍発見の軌跡とその展望」を開催 (会場：まなびタウンとうはく、共催：河本家住宅保存会)
11月 1日	共通	しまね地域資料リポジトリGO-GURaを公開
11月 9日	本館	企画展「江戸カ―手銭家蔵書から見る出雲の文芸―」を開催 (共催：手銭記念館、本学法文学部山陰研究センター 11月30日まで)
11月10日	本館 医学図書館	第1回全国学生協働サミットに図書館コンシェルジュ2名が参加 (会場：パシフィコ横浜 第18回図書館総合展) 第2回附属図書館医学図書館運営会議
11月28日	共通	全国遺跡報告総覧シンポジウムを開催 (会場・共催：奈良文化財研究所)
12月10日	本館	企画展「足立文庫を通じて見る戦前・戦中・戦後」を開催 (共催：本学法文学部山陰研究センター 翌年1月22日まで)
12月11日	共通	しまね大交流会2016に2ブースを出展
12月12日	本館	期間限定の学生選書企画として学内生協店頭で選書が可能に (12月22日まで)
12月13日	共通	ファシリテーション研修会「ファシリテーターになろう」を開催 (会場：タウンプラザしまね、共催：松江市立図書館)
12月15日	共通	第4回附属図書館運営会議
12月19日	医学図書館	第25回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会(医図懇)総会を開催
2017年 1月28日	本館 本館	地域コミュニティラボを開設 地域コミュニティラボ展示「鐵の造形―島根県銚鉄铸件産業の技と匠―」(共催：島根県銚鉄铸件工業組合 2月10日まで)
2月 3日	本館	地域コミュニティラボ活用セミナーを開催
3月30日	医学図書館	入館ゲートを更新

## 資料提供

資料名	掲載資料, 放映番組, 展示会名
出雲天隆公寿蔵記	掲載/貸出 展覧会「武士と印刷」図録および「博物館ニュース」、webサイト（印刷博物館 2016/10/22～2017/1/15）
出雲国古図：出雲国十二郡図	掲載 池淵俊一『松江市ふるさと文庫18 出雲世界のルーツ』（松江市史料編纂課）
因幡伯耆魚漁図解（下）	掲載 大嶋陽一『鳥取の珊瑚細工』『神奈川大学日本常民文化研究所報告書 第25集』（神奈川大学日本常民文化研究所）
石見国商工便覧	掲載/貸出 企画展「いわみもの・暮らしを形づくる石見のやきもの」（島根県立古代出雲歴史博物館）
	掲載/貸出 「近世・近代の石見焼の研究」島根県古代文化センター研究論集17（島根県古代文化センター）
雲州橋巻（桑原文庫）	掲載 『週刊 ビジュアル江戸三百藩』第45号（ハーバーコリンズ・ジャパン）
永祿江戸図（桑原文庫）	掲載 『尾張中屋敷その後（仮）』（2017年自費出版予定）
	放映 尾上松也の古地図で謎解きにつぼん探究！（日本ケーブルテレビジョン 2016/11/9）
延喜式（桑原文庫）	放映 グッド！モーニング・新説謎解きミステリー（テレビ朝日 2016/7中旬）
	掲載 『発見・検証 日本の古代Ⅱ 騎馬文化と古代のイノベーション』（角川文化振興財団）
寛永出雲国絵図	掲載 「史跡松江城保存活用計画」（松江市歴史まちづくり部）
	放映 斐伊川・神戸川治水事業のあゆみ（出雲市、出雲ケーブルテレビジョン、放映日時不詳）
旧制松高物語	貸出 展示「名編集者・花森安治が見た松江」（松江歴史館 2016/8/4～9/30）
校友会雑誌（松江高等学校校友会文芸部）18号	掲載 唐澤平吉ほか編『花森安治装釘集成』（みずのわ出版）
	掲載/貸出 企画展「花森安治の仕事」展（世田谷美術館ほか巡回展示）展示および図録
校友会雑誌（松江高等学校校友会文芸部）19号	掲載 唐澤平吉ほか編『花森安治装釘集成』（みずのわ出版）
	掲載 「島根県松江市へ花森安治を感じる旅」（NHK「日曜美術館」webサイト『出かけよう、日美旅』第15回）
	掲載/貸出 企画展「花森安治の仕事」展（世田谷美術館ほか巡回展示）展示および図録
	貸出 展示「名編集者・花森安治が見た松江」（松江歴史館 2016/8/4～9/30）
校友会雑誌（松江高等学校校友会文芸部）20号	掲載 唐澤平吉ほか編『花森安治装釘集成』（みずのわ出版）
	放映 日曜美術館（NHK Eテレ 2016/7/17）
	掲載 「島根県松江市へ花森安治を感じる旅」（NHK「日曜美術館」webサイト『出かけよう、日美旅』第15回）
	掲載 「ふるさと巡り IN 東京」『東京双松会 会報7号』（東京双松会）
	掲載/貸出 企画展「花森安治の仕事」展（世田谷美術館ほか巡回展示）展示および図録
	掲載 花森安治関連記事への掲載（朝日新聞島根版）
	貸出 展示「名編集者・花森安治が見た松江」（松江歴史館 2016/8/4～9/30）
	掲載 朝日新聞 島根版
校友会雑誌（松江高等学校校友会文芸部）21号	掲載 唐澤平吉ほか編『花森安治装釘集成』（みずのわ出版）
	掲載 島根県松江市へ花森安治を感じる旅（NHK「日曜美術館」webサイト『出かけよう、日美旅』第15回）
	掲載/貸出 企画展「花森安治の仕事」展（世田谷美術館ほか巡回展示）展示および図録
	貸出 展示「名編集者・花森安治が見た松江」（松江歴史館 2016/8/4～9/30）
拾遺抄/藤原公任撰	掲載 梅澤亜希子「三井文庫所蔵の『拾遺抄』について」『三井美術文化史論集 第10号』（三井記念美術館）
関原両軍陣之図	掲載 宍道正年『親子で学ぶ国宝松江城のお殿様』
	掲載 松江城を教材とした授業の教師用指導書及びDVD（松江市教育委員会）
日本朝鮮図（日本総図附朝鮮）	放映 尾上松也の古地図で謎解きにつぼん探究！（日本ケーブルテレビジョン2016/5/17）
文化改正出雲国十郡村附絵図	掲載 池淵俊一『松江市ふるさと文庫18 出雲世界のルーツ』（松江市史料編纂課）
堀尾期松江城下町絵図	掲載 「史跡松江城保存活用計画」（松江市歴史まちづくり部）
	掲載 『週刊 ビジュアル江戸三百藩』第32号（ハーバーコリンズ・ジャパン）
	掲載 周遊バス「レイクライン」内の車内画像モニター（松江市交通局）
	掲載 「松江城授業化プロジェクト」配布用パンフレット（松江歴史館）
	掲載 『じゃらん』10月号（リクルートホールディングス）
	放映 航空機機内上映番組「SKY EYE 島根編」（全日本空輸株式会社）
	掲載 『プラタモリ 4巻』（株式会社KADOKAWA）
	掲載 記者公開資料、現地説明会資料（松江市スポーツ・文化振興財団）
	掲載 企画展「堀尾氏の築いた松江城と城下町」（大口町歴史民俗資料館、2016/10/22～12/11）ポスター、パンフレット
	掲載 『わがまち松江の誇り 国宝松江城ハンドブック』（松江市教育委員会）児童用教材
	掲載 松江城を教材とした授業の教師用指導書及びDVD（松江市教育委員会）
松江市商工大鑑	掲載 『松江市歴史叢書10「松江市史研究8号」』（松江市教育委員会）
	掲載 『おとな旅プレミアム 出雲・松江：石見銀山・境港・鳥取』（TAC出版）
松平期松江城下町絵図	貸出 教育研究と松江市史編纂のため
	掲載 史跡松江城保存活用計画（松江市歴史まちづくり部）
六諭衍義	掲載 「松江城授業化プロジェクト」配布用パンフレット（松江歴史館）
	掲載 記者公開資料、現地説明会資料（松江市スポーツ・文化振興財団）
和漢三才図会	掲載 展覧会「武士と印刷」（印刷博物館 2016/10/22～2017/1/15）図録掲載
	掲載 『熱海温泉誌』（熱海市）
	掲載 八田尚子 野村まり子『まるごとじんじん』（絵本塾出版）



## 報道

事 項	掲 載 紙
全国遺跡報告総覧、CiNii Booksと連携開始	山陰中央新報 (2016/5/9)
蔵書リユース市の開催	朝日新聞 (2016/10/14), 山陰中央新報 (2016/10/18, 20), 山陰ケーブルテレビジョン (2016/10/19), NHK (2016/10/20)
しまね地域資料リポジトリ (GO-GURa) 公開	朝日新聞 (2016/11/19)
企画展「足立文庫を通じて見る戦前・戦中・戦後」	山陰中央新報 (2017/1/15), 産経新聞 (2017/1/20), 中国新聞 (2017/1/21)
地域コミュニティラボの開設	産経新聞 (2017/2/2), 中国新聞 (2017/2/8)
地域コミュニティラボにて企画展の開催	山陰中央新報 (2017/2/8)

## 刊行物

2016年 8月	島根大学附属図書館年報2015
2017年 3月	島根大学附属図書館報「沁雲」第19号
年に6回	本館ニュース「LiMe: ライム」(No.76~81)
毎 月	医学図書館ニュース「インフォ・アクセス」(Vol.12, No.4~Vol.13, No.3)

## 人事異動

### 【2016（平成28）年 4月 1日発令】

氏 名	異 動 後	異 動 前
田 中 やよい	採用 学術国際部図書情報課係員 (情報サービスG資料利用担当)	
青 山 佳 織	採用 学術国際部図書情報課係員 (情報サービスG資料利用担当)	
米 田 政 子	再雇用更新 学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)

### 【2017（平成29）年 3月31日発令】

氏 名	異 動 後	異 動 前
田 中 俊 二	退職 (岡山大学附属図書館情報管理課へ)	図書情報課長
福 山 栄 作	退職 (広島大学社会産学連携室図書館部へ)	学術国際部図書情報課係長 (企画・整備GL)

## 研修

名称 (参加者)	期 間
平成28年度国立大学図書館協会中国四国地区協会助成事業ワークショップ (田中やよい)	2016年 9月 2日
日本図書館研究会中国ブロックセミナー (田中俊二、昌子喜信、山本真紀、矢田貴史、田中やよい、長田美加)	2016年 9月12日
科学技術振興機構と中国政府による招へいプログラムによる中国への研修旅行 (佐藤陽子)	2016年10月10日~10月15日
第57回中国四国地区大学図書館研究集会 (昌子喜信、福山栄作、矢田貴史、錦織亜希子、三村のぞみ、田中やよい)	2016年10月13日~10月14日
平成28年度国立大学図書館協会地区助成事業近畿地区協会講演会 (錦織亜希子、青柳和仁)	2016年10月21日
島根県大学・高専図書館協議会 研究集会 (三村のぞみ)	2016年12月 9日
ファシリテーション研修会 (昌子喜信、矢田貴史、錦織亜希子、青柳和仁、佐藤陽子、青山佳織)	2016年12月13日
平成28年度図書館等職員著作権実務講習会 (三村のぞみ)	2016年12月13日~12月14日
平成28年度読書普及研修会 (足立美和、錦織亜希子)	2017年 1月19日
国立大学図書館協会シンポジウム (錦織亜希子)	2017年 2月20日

SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY

Annual Report 2016

島根大学附属図書館年報2016

2017(平成29)年7月発行  
発行:島根大学附属図書館

《本館》〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL.0852-32-6083 FAX.0852-32-6089  
《医学図書館》〒693-8501 出雲市塩冶町89-1 TEL.0853-20-2094 FAX.0853-20-2095